



神経化学

Bulletin of the Japanese Society for Neurochemistry
Vol.52 (No.2), 2013

Neuro2013

第56回日本神経化学会(京都)大会

第36回日本神経科学大会

第23回日本神経回路学会大会

合同大会

プログラム号

目 次

第 56 回日本神経化学会・総会の開催について	巻頭
Neuro2013 へようこそ	61
大会委員一覧	62
国立京都国際会館へのアクセス	63
会場案内図	64
大会日程概要	65
大会日程表	68
プレナリーレクチャー	72
シンポジウム	73
神経化学教育口演セッション	79
参加者へのご案内	82
座長へのご案内、発表者へのご案内	92
ポスター発表者へのご案内	93
発表資料の配色についてお願い	94
特別企画のご案内	95
教育講演	98
2013 年度最優秀奨励賞・奨励賞受賞者一覧	100
謝辞	101
学会からのお知らせ	103
理事会議事録	108
次期大会のご案内	117
第 11 回世界生物学的精神医学会国際会議のご案内	118
学会掲示板	120
賛助会員	130
投稿規定	131

2013 年 6 月

日本神経化学会
会員 各位

日本神経化学会
理事長 木山 博資

* 第 56 回日本神経化学会・総会の開催について *

謹 啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、下記の通り日本神経化学会総会を開催致したくご案内申し上げます。

なお、欠席される方は委任状に必要事項（代理人もご指定下さい）をご記入の上、事務局宛てご送付下さるか、学会当日、受付までご提出下さいますようお願い申し上げます。

敬 白

記

日 時： 2013 年 6 月 21 日（金） 14：30～15：20

場 所： 国立京都国際会館 第 6 会場（Room B-1）

議題（予定）：

1. 理事長報告	10. 2012 年度決算の件
2. 選挙結果報告	11. 同監査報告
3. 庶務報告	12. 2014 年度予算の件
4. 会計報告	13. 監事選任の件
5. 出版・広報報告	14. 評議員選任の件
6. プログラム編成報告	15. 名誉会員推薦の件
7. 各種委員会報告	16. 功労会員推薦の件
8. 2013 年度奨励賞選考結果報告	17. 細則改訂の件
9. 優秀賞新設に伴う各賞規定・ 内規の改訂の件	18. 次期大会の件
	19. その他

2013 年
日本神経化学会
総 会

委 任 状

（ご欠席の方はご記入ください）

2013 年日本神経化学会総会の議決権の行使に
関する一切の権限を

代理人 _____ に委任します。

2013 年 月 日

ご所属 _____

ご芳名 _____ ④

* なお、代理人氏名のご記入がない委任状は、
大会長を代理人としたものとして取扱います。



料金受取人払郵便

新宿局承認

6180

差出有効期間
平成26年4月
30日まで

郵便はがき

1 6 0 8 7 9 2

3 7 6



日本神経化学会

行

東京都新宿区信濃町三五 信濃町煉瓦館5階
(財)国際医学情報センター内

Neuro2013 へようこそ

いよいよNeuro2013（第36回日本神経科学大会、第56回日本神経化学会大会ならびに第23回日本神経回路学会大会）が、2013（平成25）年6月20日（木）から23日（日）の4日間にわたり、国立京都国際会館にて開催されます。3つの学会が3年に一度一緒になり、広範な分野の脳神経科学者が一同に会することで、様々なシナジーが生まれ、新たな研究のベクトルが生まれることを心より期待しております。

今大会は前年の各大会からの期間がかなり前倒しになっていたにもかかわらず、多くの方から多数の演題応募をいただき、心より感謝いたします。また、アジアを中心に北米やヨーロッパなど海外からも多くの参加者が予定されております。プレナリーレクチャー（3題）、シンポジウム等指定演題（240題）、一般口演（280題）、ポスター（1452題）、この他各学会の企画や教育セミナー、また世界生物学的精神医学会（WFSBP）との共催シンポジウムなど多彩な内容を準備することができました。大会の準備にあたりまして、これまで様々な形でご支援ご協力をいただきました多くの皆様に心よりお礼申し上げます。

Neuro2013では、学際性・国際性の推進、臨床との連携、および若手育成を目指すことはもちろんですが、とりわけ今大会はWFSBPとの連携が一つの目玉となっております。これまで大いに進歩した神経科学を元に、精神疾患という謎の疾患の解明を進めようという機運が高まっています。うつ病、認知症を初めとする、社会的に大きな影響を与えている精神神経疾患を解明するために、本大会がランドマークとなることできれば望外の喜びです。

では、緑豊かな6月の古都京都に皆様をお迎えし、皆様が活発な議論と親交を深められることをスタッフ一同心よりお祈りしております。

第36回日本神経科学大会 大会長

加藤 忠史（理化学研究所 脳科学総合研究センター）

第56回日本神経化学会大会 大会長

木山 博資（名古屋大学大学院医学系研究科）

第23回日本神経回路学会大会 大会長

五味 裕章（NTTコミュニケーション科学基礎研究所）

大会委員一覧

大会長

第36回日本神経科学大会	加藤 忠史	理化学研究所 脳科学総合研究センター
第56回日本神経化学学会大会	木山 博資	名古屋大学大学院医学系研究科
第23回日本神経回路学会大会	五味 裕章	NTTコミュニケーション科学基礎研究所

実行委員長

上口 裕之	理化学研究所脳科学総合研究センター	池田 和司	奈良先端科学技術大学院大学
山田 清文	名古屋大学大学院医学系研究科		

実行委員

藤井 直敬	理化学研究所脳科学総合研究センター	橋本 均	大阪大学大学院薬学研究科
細谷 俊彦	理化学研究所脳科学総合研究センター	小川 正	京都大学大学院医学研究科
工藤 喬	大阪大学保健センター	森本 淳	国際電気通信基礎技術研究所 脳情報研究所

プログラム委員長

糸原 重美	理化学研究所脳科学総合研究センター	柴田 智広	奈良先端科学技術大学院大学
小泉 修一	山梨大学大学院医学工学総合研究部		

プログラム委員

塩坂 貞夫	奈良先端科学技術大学院大学	加藤 總夫	東京慈恵会医科大学
合田裕紀子	理化学研究所 脳科学総合研究センター	仙波恵美子	和歌山県立医科大学医学部
鍋倉 淳一	自然科学研究機構 生理学研究所	糸原 重美	理化学研究所 脳科学総合研究センター
真鍋 俊也	東京大学医科学研究所	藤井 直敬	理化学研究所 脳科学総合研究センター
渡辺 雅彦	北海道大学医学研究科	橋本 均	大阪大学大学院薬学研究科
岡村 康司	大阪大学大学院医学系研究科	黒田 公美	理化学研究所 脳科学総合研究センター
細谷 俊彦	理化学研究所 脳科学総合研究センター	岡村 均	京都大学大学院薬学研究科
岡部 繁男	東京大学大学院医学系研究科	岡ノ谷一夫	東京大学
池中 一裕	自然科学研究機構 生理学研究所	銅谷 賢治	沖縄科学技術研究・交流センター
中島 欽一	九州大学大学院医学研究科	宮川 剛	藤田保健衛生大学
小泉 修一	山梨大学大学院医学工学総合研究部	山田 清文	名古屋大学大学院医学系研究科
五嶋 良郎	横浜市立大学医学部	工藤 喬	大阪大学大学院医学系研究科
上口 裕之	理化学研究所 脳科学研究センター	那波 宏之	新潟大学脳研究所
等 誠司	滋賀医科大学	高橋 良輔	京都大学大学院医学研究科
高橋 淑子	奈良先端科学技術大学院大学	山中 宏二	名古屋大学
仲嶋 一範	慶應義塾大学医学部	山脇 成人	広島大学大学院医歯薬総合研究科
澤本 和延	名古屋大学大学院医学研究科	岩坪 威	東京大学大学院医学系研究科
相澤 慎一	理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター	田口 明彦	財団法人先端医療振興財団
影山龍一郎	京都大学ウイルス研究所	高橋 英彦	京都大学医学部附属病院・精神科
林 康紀	理化学研究所 脳科学総合研究センター	内匠 透	理化学研究所 脳科学総合研究センター
小川 正	京都大学大学院医学研究科	須原 哲也	独立行政法人放射線医学総合研究所
内藤 栄一	独立行政法人情報通信研究機構	池田 和司	奈良先端科学技術大学院大学
今水 寛	独立行政法人情報通信研究機構	森本 淳	国際電気通信基礎技術研究所
伊佐 正	自然科学研究機構 生理学研究所	柴田 智広	奈良先端科学技術大学院大学
藤田 一郎	大阪大学大学院生命機能研究科	神谷 之康	国際電気通信基礎技術研究所
谷藤 学	理化学研究所 脳科学総合研究センター	八木 哲也	大阪大学大学院工学研究科
津田 誠	九州大学薬学研究院	中井 淳一	埼玉大学総合研究機構
東原 和成	東京大学大学院農学生命科学研究科	八尾 寛	東北大学大学院生命科学研究所
南部 篤	自然科学研究機構 生理学研究所	佐倉 統	東京大学大学院情報学環
柏野 牧夫	日本電信電話株式会社コミュニケーション科学基礎研究所	Ole Kiehn	The Karolinska Institute
金子 武嗣	京都大学医学研究科	Eric Klann	New York University
河田 光博	京都府立医科大学大学院医学研究科	Minho Lee	Kyungpook National University

Travel Award 選考委員長

小林 康	大阪大学大学院
------	---------

Travel Award 選考委員

中村 加枝	関西医科大学学生理学第二	小倉 明彦	大阪大学大学院
佐々木耕太	大阪大学大学院	森本 淳	株式会社国際電気通信基礎技術研究所
和中 明生	奈良県立医大		

市民公開講座実施委員長

藤井 直敬	理化学研究所 脳科学総合研究センター
-------	--------------------

広報委員長

小泉 周	自然科学研究機構 生理学研究所	柴田 智広	奈良先端科学技術大学院大学
佐藤 真	福井大学		

組織委員

岡野 栄之	慶應義塾大学医学部生理学	竹市 雅俊	理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター
金澤 一郎	国際医療福祉大学	津本 忠治	理化学研究所 脳科学総合研究センター
川人 光男	A T R 脳情報通信総合研究所	遠山 正彌	大阪大学大学院医学系研究科
木村 實	玉川大学 脳科学研究所	中西 重忠	財団法人大阪バイオサイエンス研究所
祖父江 元	名古屋大学大学院 医学系研究科 神経内科	鍋島 俊隆	名城大学大学院 薬学研究科
高坂 新一	国立精神・神経医療研究センター 神経研究所	御子柴 克彦	理化学研究所 脳科学総合研究センター
高井 義美	神戸大学大学院医学研究科分子細胞生物学		

国立京都国際会館へのアクセス



国立京都国際会館

〒606-0001 京都市左区宝ヶ池 TEL:075-705-1234 FAX:075-705-1100

【JR京都駅までのアクセス】

京都駅までの所要時間は、関西国際空港から特急「はるか」で約75分、大阪伊丹空港からはリムジンバスで約55分。
首都圏からは新幹線「のぞみ」で約2時間15分。

【電車でのアクセス】

JR京都駅から市営地下鉄烏丸線で約20分。
市営地下鉄烏丸線「国際会館駅」下車。

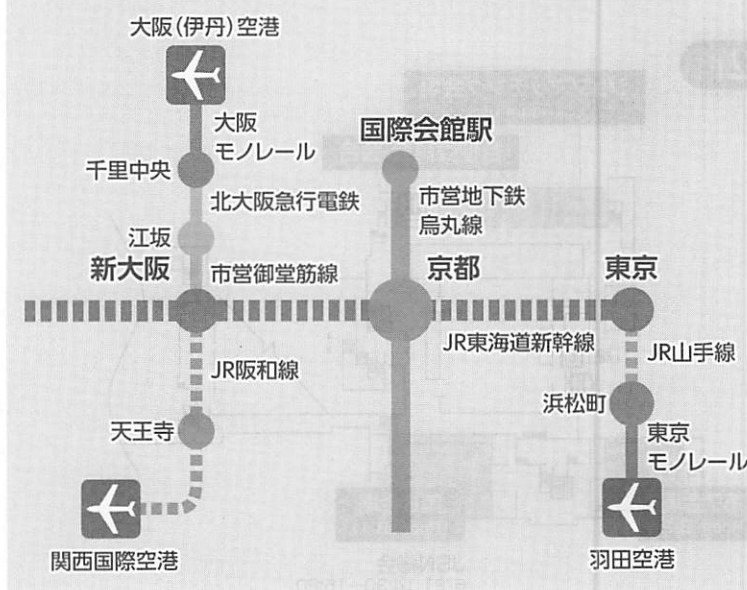
【最寄り駅から】

市営地下鉄烏丸線「国際会館駅」から徒歩5分。
改札から地下通路を通り出入口4-2をご利用ください。出入口からは、歩道に沿って雨に濡れずに正面玄関までお越し頂けます。

【お車をご利用のお客様】

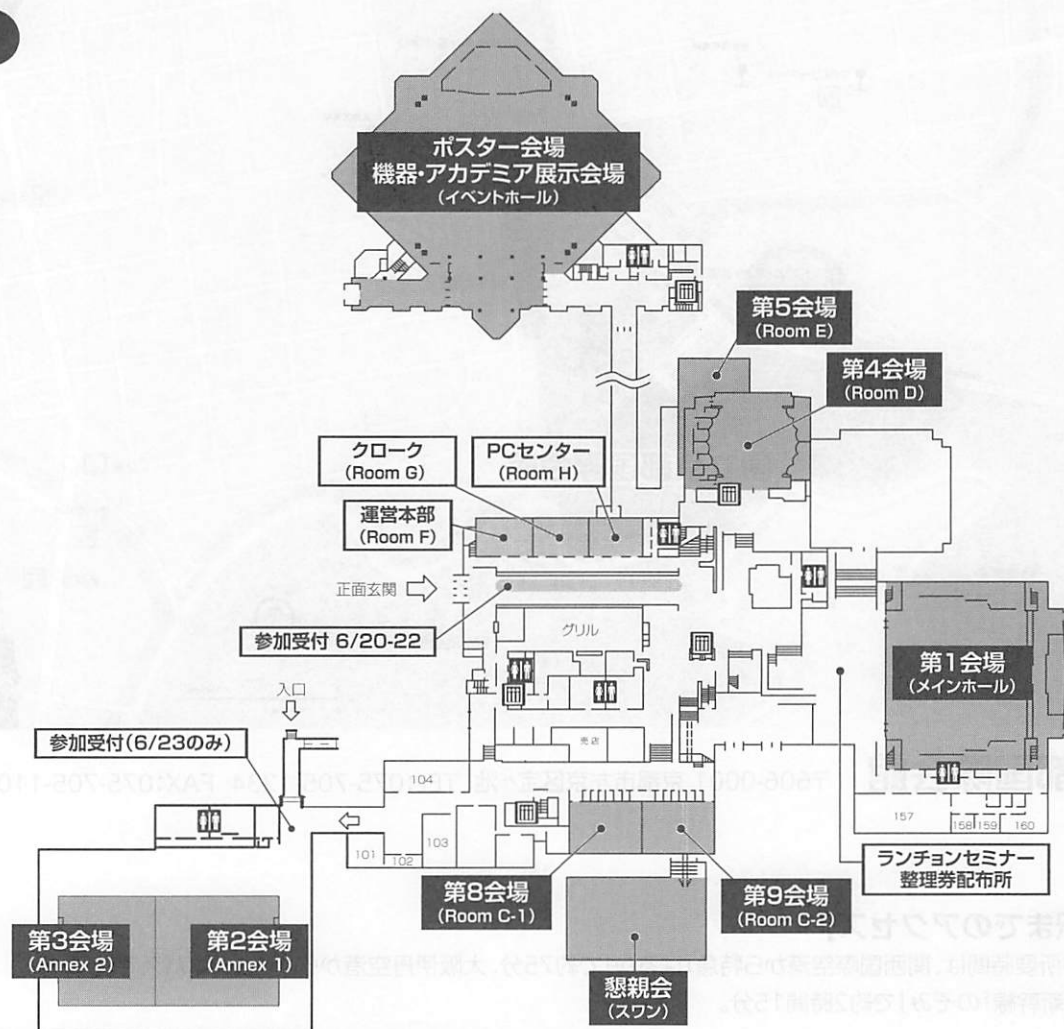
市内中心部からタクシーで平常時約25分。
京都駅からタクシーで平常時約30分。関西国際空港からは約1時間30分です。
明神高速道路京都南I.C. 京都東I.C.から平常時約40分です。堀川通または烏丸通を北山通まで北上し、宝ヶ池通りよりお越しください。

京都までのアクセス

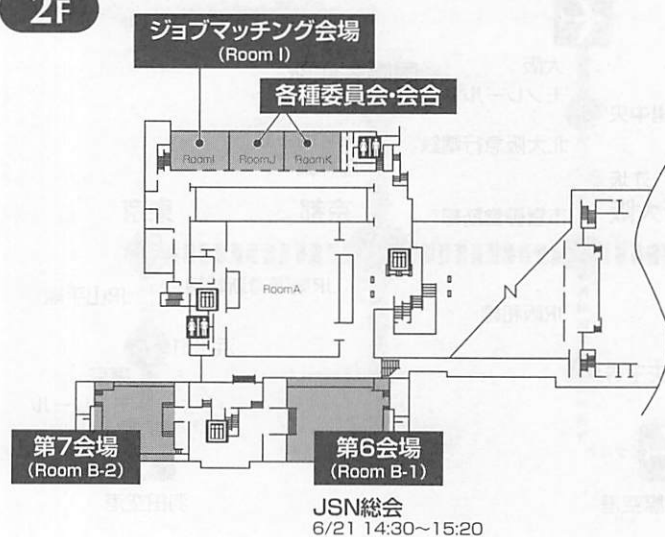


会場案内図

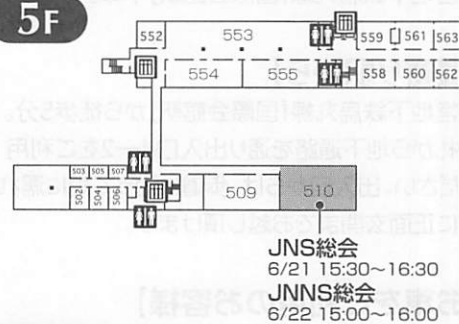
1F



2F



5F



6F



Program at a Glance 大会日程概要

◆ Plenary Lectures プレナリーレクチャー : Room 1 / Main Hall (第1会場 / メインホール)

Thursday, June 20th 6月20日(木) 12:50~13:45

Prof. Maiken Nedergaard (University of Rochester Medical Center)

Friday, June 21st 6月21日(金) 12:50~13:45

Prof. Fred Gage (Laboratory of Genetics, Salk Institute)

Saturday, June 22nd 6月22日(土) 12:50~13:45

Prof. Miguel Nicolelis (Duke University Medical Center)

◆ Special Lecture of The Japanese Neural Network Society : Bunka Kōrōsha* Award Lecture

神経回路学会特別企画 : 文化功労者顕彰記念講演 : Room3 / Annex2 (第3会場 / アネックス2)

*Bunka Kōrōsha (Person of Cultural Merit) is an official Japanese recognition and honor.

Friday, June 21st 6月21日(金) 11:45~12:35

甘利 俊一 (Shun-ichi Amari)

理化学研究所 脳科学総合研究センター (RIKEN Brain Science Institute)

*Light meals will be sold at the room. 軽食を会場前で販売いたします。

◆ Tsukahara & Tokizane Award Lectures 塚原仲晃記念賞、時實利彦記念賞 受賞記念講演 :

Room 1 / Main Hall (第1会場 / メインホール)

<塚原仲晃記念賞>

Thursday, June 20th 6月20日(木) 17:00~18:20

神谷 之康 (Yukiyasu Kamitani)

ATR脳情報研究所 (ATR Computational Neuroscience Laboratories)

合田 裕紀子 (Yukiko Goda)

理化学研究所脳科学総合研究センター (RIKEN Brain Science Institute)

<時實利彦記念賞>

Thursday, June 20th 6月20日(木) 18:20~19:00

森 郁恵 (Ikue Mori)

名古屋大学大学院 (Graduate School of Science, Nagoya University)

◆ ISN / JSN joint symposium ISN (国際神経化学会) / JSN (日本神経化学会) 共催シンポジウム :

Room 1 / Main Hall (第1会場 / メインホール)

Friday, June 21st 6月21日(金) 8:45~10:45

◆ JSN Board planning symposium 日本神経化学会理事会企画シンポジウム :

Room 3 / Annex 2 (第3会場 / アネックス2)

Thursday, June 20th 6月20日(木) 14:00~16:00

◆ JSN Distinguished Young Investigator Award Lecture

日本神経化学会最優秀奨励賞受賞講演 : Room 6 / Room B1 (第6会場 / 会議室 B1)

Friday, June 21st 6月21日(金) 15:20~16:00

Program at a Glance 大会日程概要

◆ Symposia シンポジウム : Room1 / Main Hall (第1会場 / メインホール)

Room 2-3 / Annex 1-2 (第2-3会場 / アネックス1-2)、Room 4-5 / Room D-E (第4-5会場 / 会議室 D-E)

Thursday, June 20th 6月20日(木) 8:45~10:45, 14:00~16:00, 17:00~19:00

Friday, June 21st 6月21日(金) 8:45~10:45, 14:00~16:00, 17:00~19:00

Saturday, June 22nd 6月22日(土) 8:45~10:45, 14:00~16:00, 17:00~19:00

◆ Lunch-time Mini-Symposium ランチタイム・ミニシンポジウム :

Room 7 / Room B2 (第7会場 / 会議室 B2)

Introduction of Japan-U.S. Brain Research Cooperative Program

日米科学技術協力事業「脳研究」

Saturday, June 22nd 6月22日(土) 11:45~12:35

◆ Educational Lectures 教育講演 :

Room 2~8 / Annex1-2, Room B1, B2, C1, D, E (第2~8会場 / アネックス1-2, 会議室 B1, B2, C1, D, E)

Thursday, June 20th 6月20日(木) 11:45~12:35

Friday, June 21st 6月21日(金) 11:45~12:35

Saturday, June 22nd 6月22日(土) 11:45~12:35

*Light meals will be sold at the room. 軽食を会場前で販売いたします。

◆ Joint Symposium with the 11th World Congress of Biological Psychiatry (WFSPB)

第11回世界生物学的精神医学会国際会議(WFSPB)とNeuro2013との共催シンポジウム :

Room 2 / Annex 1 (第2会場 / アネックス1)

Sunday, June 23rd 6月23日(日) 9:00~11:20, 12:20~14:20

*Light meals will be sold at the room during lunch time. 昼食時に軽食を会場前で販売いたします。

◆ Educational course of cutting edge brain science for clinicians (in Japanese)

臨床医のための最新脳科学教育コース(日本語のみ) : Room 3 / Annex 2 (第3会場 / アネックス2)

Sunday, June 23rd 6月23日(日) 9:00~14:00

*Light meals will be sold at the room. 軽食を会場前で販売いたします。

◆ Oral Sessions 一般口演 : Room 6~9 (Room B1, B2, C1, C2) (第6-9会場 / 会議室 B1-2, C1-2)

Thursday, June 20th 6月20日(木) 8:45~10:45, 14:00~16:00, 17:00~19:00

Friday, June 21st 6月21日(金) 8:45~10:45, 14:00~16:00, 17:00~19:00

Saturday, June 22nd 6月22日(土) 8:45~10:45, 14:00~16:00, 17:00~19:00

Program at a Glance 大会日程概要

◆ Poster Sessions ポスター発表 :

Poster and Exhibition (Event hall) (ポスター・展示会場(イベントホール))

A new procedure is applied from this year, there will be two poster sessions on each day from June 20 to 22. One is in the mornings (10:45-11:45) and the other is in the afternoons (16:00-17:00.)

Each presenter will be assigned to present his/her poster in only one session.

Please see "the Information for Participants" section for details.

今年初の試みで、ポスター発表は午前と午後の部それぞれで、貼付け→閲覧→発表→撤去となります。詳細は「参加者へのご案内」をご覧ください。

Session Number	Date of Presentation 発表日	Installation 貼付け時間	Poster Viewing Hour 閲覧時間	Presentation / Discussion 説明・討論	Removal 撤去時間
P1-1	Thursday, June 20 6月20日(木)	8:30~ 8:45	8:45~10:45 11:45~12:35	10:45~11:45	12:35~12:50
P1-2		13:45~14:00	14:00~16:00 17:00~18:00	16:00~17:00	19:00~19:15
P2-1	Friday, June 21 6月21日(金)	8:30~ 8:45	8:45~10:45 11:45~12:35	10:45~11:45	12:35~12:50
P2-2		13:45~14:00	14:00~16:00 17:00~18:00	16:00~17:00	19:00~19:15
P3-1	Saturday, June 22 6月22日(土)	8:30~ 8:45	8:45~10:45 11:45~12:35	10:45~11:45	12:35~12:50
P3-2		13:45~14:00	14:00~16:00 17:00~18:00	16:00~17:00	19:00~19:15

◆ Luncheon Seminars ランチョンセミナー :

Room assignments are different for each day. (会場は日によって異なります)

Thursday, June 20th 6月20日(木) 11:45~12:35

Friday, June 21st 6月21日(金) 11:45~12:35

Saturday, June 22nd 6月22日(土) 11:45~12:35

◆ Exhibition 機器展示 : Poster and Exhibition Hall (Event Hall) (ポスター・展示会場(イベントホール))

Thursday, June 20th 6月20日(木) 9:00~18:00

Friday, June 21st 6月21日(金) 9:00~18:00

Saturday, June 22nd 6月22日(土) 9:00~17:00

◆ Meetings 総会等

JNS Board Members' Meeting 日本神経科学学会理事会 : Room K (会議室K)

Wednesday, June 19th 6月19日(水) 14:00~17:00

JSN Board Members' Meeting 日本神経化学学会理事会 : Room J (会議室J)

Wednesday, June 19th 6月19日(水) 13:00~17:00

JSN Members' Business Meeting 日本神経化学学会総会 : Room B1 (第6会場)

Friday, June 21st 6月21日(金) 14:30~15:20 (総会のみ)

JNS Members' Business Meeting 日本神経科学学会総会 : Room 510 (会議室510)

Friday, June 21st 6月21日(金) 15:30~16:30

JNNS Members' Business Meeting 日本神経回路学会総会 : Room 510 (会議室510)

Saturday, June 22nd 6月22日(土) 15:00~16:00

Reception (NeuroSocial) 懇親会 : Room Swan (スワン)

Friday, June 21st 6月21日(金) 19:00~20:30

大会日程表

■大会第1日目 6月20日(木)

会場名	第1会場 メインホール	第2会場 アネックス1	第3会場 アネックス2	第4会場 会議室D	第5会場 会議室E	第6会場 会議室B1	第7会場 会議室B2	第8会場 会議室C1	第9会場 会議室C2	ポスター会場 イベントホール	展示会場
8:00											
9:00	シンポジウム S1-1-1 動物の適応行動 における手綱核 研究の最前線 岡本 仁 相澤 秀紀	シンポジウム S1-2-1 神経炎症: 脳内環境の破壊が もたらす疾患研究 のフロンティア 山中 宏二 樋口 真人	シンポジウム S1-3-1 神経回路の構築: 発生学から 再生戦略へ 竹居光太郎 上口 裕之	シンポジウム S1-4-1 哺乳類大脳 皮質の進化 -新たな研究 戦略の展開 野村 真 新井 洋子	シンポジウム S1-5-1 電位依存性イオン チャネル研究の フロンティア:ホジ キン・ハックスレー から60年を経て 岡村 康司 御園生裕明	一般口演 O1-6-1 C. 幹細胞・ 細胞分化1	一般口演 O1-7-1 A. 興奮性とシナプス 機能の分子制御機構	一般口演 O1-8-1 D. 感覚運動制御/ 学習1	一般口演 O1-9-1 F. 注意・知覚統合/ 空間・時間認知	ポスター貼付	
10:00						一般口演 O1-6-2 C. 幹細胞・ 細胞分化2	一般口演 O1-7-2 A. シナプス・神経回路 の活性調節機構	一般口演 O1-8-2 D. 感覚運動制御/ 学習2	一般口演 O1-9-2 F. ワーキングメモリ・ 実行機能	ポスター閲覧	
11:00										ポスター討論 P1-1	
12:00		ランチョンセミナー LS1 アジレント・ テクノロジー(株) Ihan Chou (大隅 典子)	教育セミナー EL1(英語) Ihan Chou (大隅 典子)	ランチョンセミナー LS2 (株)成茂科学 器械研究所	教育セミナー EL2 根本 清貴 笠井 清澄 (笠井 清澄)	教育セミナー EL3 鍋倉 淳一 (井上 和秀)	ランチョンセミナー LS3 (株)ミユキ技研	教育セミナー EL4 深井 朋樹 (島崎 秀昭)		ポスター閲覧	
13:00	プレナリー レクチャー PL1 Maiken Nedergaard Ch.Hiroshi Kiyama									ポスター撤去	
14:00										ポスター貼付	展示
15:00	シンポジウム S1-1-2 光による神経 細胞機能制御 実吉 岳郎 松田 信爾	シンポジウム S1-2-2 海馬・嗅内皮質系 における 認知記憶情報 のダイナミクス 佐藤 正晃 田代 歩	シンポジウム S1-3-2 日本神経化学会 理事会企画 シンポジウム (日本語) 橋本 亮太	シンポジウム S1-4-2 脳の確率的な 計算原理 坪 泰宏 深井 朋樹	シンポジウム S1-5-2 メタリカルガスによる 酸化ストレス耐性シグ ナリングと神経系保護 および老化遅延 野田 百美 大野 欽司	一般口演 O1-6-3 C. 突起伸長1	一般口演 O1-7-3 A. シナプス 後性機構	一般口演 O1-8-3 G. アルツ ハイマー病1	一般口演 O1-9-3 F. 言語機能	ポスター閲覧	
16:00						一般口演 O1-6-4 C. 突起伸長2	一般口演 O1-7-4 A. 神経伝達物質 と修飾物質	一般口演 O1-8-4 G. アルツ ハイマー病2	一般口演 O1-9-4 E. 摂食調節、 ストレス応答		
17:00										ポスター討論 P1-2	
18:00	塚原賞受賞者講演 AL1-1 神谷 之康 AL1-2 合田裕紀子 時賞受賞者講演 AL1-3 森 郁恵	シンポジウム S1-2-3 大脳皮質と海馬 の抑制性細胞の 機能解析 窪田 芳之 Elly Nedivi	シンポジウム S1-3-3 感覚情報の統合と 情動行動表出の 脳神経基盤 東原 和成 富永 真琴	シンポジウム S1-4-3 認知機能向上及び 障害のメカニズム -分子、細胞、回路 レベルの解析から 喜田 聡 尾藤 晴彦	シンポジウム S1-5-3 概日リズム睡眠 障害の神経分子 機構 岡村 均 肥田 昌子	一般口演 O1-6-5 D. 視覚1	一般口演 O1-7-5 A. ニューロン リア相互作用	一般口演 O1-8-5 H. 神経 デコーディング	一般口演 O1-9-5 D. 基底核	ポスター閲覧	
19:00						一般口演 O1-6-6 D. 視覚2	一般口演 O1-7-6 A. 行動および 神経疾患の分子 機構	一般口演 O1-8-6 D. 小脳	一般口演 O1-9-6 G. パーキン ソン病	ポスター撤去	
20:00											
21:00											

大会日程表

■大会第2日目 6月21日(金)

会場名	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	第6会場	第7会場	第8会場	第9会場	ポスター会場	展示会場
	メインホール	アネックス1	アネックス2	会議室D	会議室E	会議室B1	会議室B2	会議室C1	会議室C2	イベントホール	
8:00											
9:00	シンポジウム S2-1-1 ISN/JSN共催 シンポジウム シナプス再編における グリア細胞の役割 小泉 修一 鍋倉 淳一 Monica Carlson	シンポジウム S2-2-1 大脳皮質回路の 動作原理解明への 最前線 細谷 俊彦 谷口 弘樹	シンポジウム S2-3-1 古くて新しい GABAの機能 ～最新研究から見え てきた神経障害の 新たな分子基盤～ 石橋 仁 照沼 美穂	シンポジウム S2-4-1 大脳新皮質構築と 回路形成機構 ～哺乳類特有の脳 構造はどのように 作られるのか？ 仲嶋 一範 花嶋かりな	シンポジウム S2-5-1 感覚と運動は 切り離せない 一局所回路 からBMIまで 【一部日本語】 関 和彦 五味 裕章	一般口演 O2-6-1 A. AMPA受容体 の輸送と機能 一般口演 O2-6-2 A. 神経調節物質 とシナプス	一般口演 O2-7-1 D. 痛覚・痒み その障害 一般口演 O2-7-2 D. 聴覚・前庭感覚 および嗅覚システム	一般口演 O2-8-1 F. 社会行動1 一般口演 O2-8-2 F. 社会行動2	一般口演 O2-9-1 G. ALS/FTLD 一般口演 O2-9-2 G. 神経変性疾患	ポスター貼付	
10:00										ポスター閲覧	
11:00										ポスター討論 P2-1	
12:00	ランチョンセミナー LS 4 大塚製薬(株)	ランチョンセミナー LS 5 大日本住友製薬(株)	神経回路特別企画 文化功労者顕彰 記念講演(英語) 甘利 俊一	ランチョンセミナー LS 6 カールツァイス マイクロスコピー(株)	教育セミナー EL 5 小林 和人 (糸原 重美)	教育セミナー EL 6 木山 博資 (高坂 新一)	教育セミナー EL 7 吉川 武男 (古市 貞一)	ランチョンセミナー LS 7 (株)NTTデータ 経営研究所	ランチョンセミナー LS 8 オリンパス(株)	ポスター閲覧	
13:00	プレナリー レクチャー PL 2 Fred Gage Ch.: Tadamuni Kato									ポスター撤去	
14:00										ポスター貼付	展示
15:00	シンポジウム S2-1-2 空間・恐怖記 憶回路の生物 学的基盤 Thomas J. McHugh 渡部 文子	シンポジウム S2-2-2 神経系における RNA研究の新たな 展開: RNAの機能、 代謝、疾患への関与 河原 行郎 株田 智弘	シンポジウム S2-3-2 計算論的感覚運 動制御とリハビ リテーションの 統合 大須理英子 田中 宏和	シンポジウム S2-4-2 依存症発症 メカニズムの 脳科学 山田 清文 橋本 恵理	シンポジウム S2-5-2 中枢神経疾患治療 に対するトランスレ ショナルリサーチの 現状とその課題 田口 明彦 松山 知弘	JSN Business Meeting 評議員会、総会 神経化学会 最優秀奨励賞 受賞講演	一般口演 O2-7-3 D. 視覚3 一般口演 O2-7-4 D. 視覚4	一般口演 O2-8-3 F. 報酬と 意志決定 一般口演 O2-8-4 F. 学習・ 長期記憶1	一般口演 O2-9-3 G. 自閉症・ 基礎 一般口演 O2-9-4 G. 疾患モデル 動物	ポスター閲覧	
16:00										ポスター討論 P2-2	15:30~16:30 JNS Meeting 総会 510
17:00	シンポジウム S2-1-3 神経疾患・損傷研究 モデルとしての 霊長類における 神経科学的研究 Douglas Munoz 伊佐 正	シンポジウム S2-2-3 奨励賞受賞者 企画シンポジウム 「細胞と神経機能」 熊本奈都子	シンポジウム S2-3-3 経験・学習依存 的な情動変化の 神経回路基盤と その破綻 野村 洋 天野 大樹	シンポジウム S2-4-3 発話と音声知覚 の脳情報処理 廣谷 定男 Sophie Scott	シンポジウム S2-5-3 基礎臨床統合シンポ ジウム(日本神経科学 学会将来計画委員会・臨 床連携WG合同企画) 【日本語】 加藤 忠史 貴島 晴彦	一般口演 O2-6-3 H. BMI 一般口演 O2-6-4 B. 転写と RNAの制御	一般口演 O2-7-5 C. 回路形成1 一般口演 O2-7-6 C. 回路形成2	一般口演 O2-8-5 F. 学習・長期 記憶2 一般口演 O2-8-6 F. 学習・長期 記憶3	一般口演 O2-9-5 G. 脳血管障害・ 虚血 一般口演 O2-9-6 G. 神経筋 疾患・脱髄	ポスター閲覧	
18:00											
19:00										ポスター撤去	
20:00											
21:00											

大会日程表

■大会第3日目 6月22日(土)

会場名	第1会場 メインホール	第2会場 アネックス1	第3会場 アネックス2	第4会場 会議室D	第5会場 会議室E	第6会場 会議室B1	第7会場 会議室B2	第8会場 会議室C1	第9会場 会議室C2	ポスター会場 イベントホール	展示会場
8:00											
9:00	シンポジウム S3-1-1 発達障害の病態 理解に向けた 統合的アプローチ	シンポジウム S3-2-1 神経化学・生物 精神の共催 シンポジウム	シンポジウム S3-3-1 回路の形成と 可塑性の統合 的理解への フロンティア	シンポジウム S3-4-1 高次元系のため の確率的状态 推定に基づいた 強化学習	シンポジウム S3-5-1 男女共同参画 推進委員会 シンポジウム	一般口演 O3-6-1 I. 先端技術 1	一般口演 O3-7-1 D. 視覚5	一般口演 O3-8-1 F. 睡眠・生体 リズム	一般口演 O3-9-1 G. 神経保護	ポスター貼付	
10:00	内匠 透	神庭 重信	櫻井 武 河崎 洋志	森本 淳 内部 英治	富永 真琴 西 真弓	一般口演 O3-6-2 I. 先端技術 2	一般口演 O3-7-2 C. 生体ニューロン 新生	一般口演 O3-8-2 F. 動機づけ・ 情動	一般口演 O3-9-2 B. 細胞内 シグナル	ポスター閲覧	
11:00										ポスター討論 P3-1	
12:00	ランチョンセミナー LS 9 日本イーライ リリー(株)	教育セミナー EL 8 山中 章弘 (林 康紀)	教育セミナー EL 9 尾崎 紀夫 (工藤 喬)	教育セミナー EL 10 銅谷 賢治 (飯島 和行)	ランチョンセミナー LS 10 サントリー ウエルネス(株)	ランチョンセミナー LS 11 ノバルティス ファーマ(株)	ミニシンポジウム MS 2 日米科学技術協力 事業「脳研究」	ランチョンセミナー LS 12 (株)島津製作所	ランチョンセミナー LS 13 株式会社ATR プロモーションズ	ポスター閲覧	11:45~12:45 男女共同参画 推進委員会企 画 情報交換座談会 510
13:00	プレナリー レクチャー PL 3 Miguel Nicolelis Ch.: H.Gomi Tom Shibata									ポスター撤去	
14:00										ポスター貼付	展示
15:00	シンポジウム S3-1-2 社会神経科学: 社会的シグナル と意思決定	シンポジウム S3-2-2 エビゲノムで 理解する 一神経発生から 精神疾患まで	シンポジウム S3-3-2 前頭葉と抑制機能: 反応抑制研究の 現在と未来	シンポジウム S3-4-2 見て調べる神 経回路機能の ダイナミクス: 再編成と変調	シンポジウム S3-5-2 摂食行動の 神経制御機構	一般口演 O3-6-3 C. 細胞移動	一般口演 O3-7-3 G. 薬物依存・ 行動薬理	一般口演 O3-8-3 神経化学教育 口演セッション 1	一般口演 O3-9-3 D. 脊髄リズム 運動	ポスター閲覧	15:00~16:00 JNNS Meeting 総会 510
16:00	松田 哲也 高橋 英彦	等 誠司 岩本 和也	小西 清貴 地村 弘二	富永 貴志 種村健太郎	井上 富雄 高橋 和貴	一般口演 O3-6-4 C. 大脳皮質 形成	一般口演 O3-7-4 G. 自閉症 臨床	一般口演 O3-8-4 神経化学教育 口演セッション 2	一般口演 O3-9-4 D. 体性感覚		
17:00										ポスター討論 P3-2	
18:00	シンポジウム S3-1-3 ヒト神経細胞と 神経変性疾患 —iPS、iN細胞の 未来—	シンポジウム S3-2-3 日加シンポジウム 「脳画像技術の進歩と 精神機能およびその 障害の研究への応用」	シンポジウム S3-3-3 多様な動物行動 を規定する大脳 基底核神経回路 機構	シンポジウム S3-4-3 家族関係を 支える神経 生物学的基盤	シンポジウム S3-5-3 ブレインバンク 死後脳を用いた 神経生物学的 研究	一般口演 O3-6-5 B. グリアの機 能	一般口演 O3-7-5 G. 気分障害	一般口演 O3-8-5 神経化学教育 口演セッション 3	一般口演 O3-9-5 H. 神経システム の学習論	ポスター閲覧	
19:00	井上 治久 藤田 亮介	Anthony Phillips 定藤 規弘	疋田 貴俊 佐野 裕美	篠原 一之 黒田 公美	村山 繁雄	一般口演 O3-6-6 B. グリア因子 と脳機能制御	一般口演 O3-7-6 G. 統合失調症	一般口演 O3-8-6 神経化学教育 口演セッション 4	一般口演 O3-9-6 H. 神経系の大規模 シミュレーションと ハードウェア実現	ポスター撤去	
20:00											
21:00											

大会日程表

大会第4日目 6月23日(日)

会場名	第2会場	第3会場
	アネックス1	アネックス2
8:00		
9:00	WFSBP-Neuro Joint Sympo01	発生再生 神経科学
10:00	Molecular Neurobiology of Schizophrenia 貝瀬 弘三 John Krystal	岡野 栄之 (尾崎 紀夫) Break 分子細胞 神経生理学 岡部 繁男 (細谷 俊彦) Break
11:00		
12:00	Lunch	システム 神経科学 池谷 裕二 (尾崎 紀夫)
13:00	WFSBP-Neuro Joint Sympo02 Neurocircuit for physiological and pathophysiological brain 鍋谷 賢治 Robert McCarley	Lunch 計算論的 神経科学 川人 光男 (細谷 俊彦)
14:00		
15:00		
16:00		
17:00		
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		

〈臨床医のための最新脳科学教育コース(日本語)〉

プレナリーレクチャー Plenary Lectures



PL1 Emerging Roles of Astrocytes in CNS

Thursday, June 20 12:50~13:45 Room 1 : Main Hall

Chairperson : 木山 博資 (Hiroshi Kiyama)
名古屋大学大学院医学系研究科
(Graduate School of Medicine, Nagoya University)

Maiken Nedergaard
University of Rochester Medical Center



PL2 Neuronal Plasticity and Diversity

Friday, June 21 12:50~13:45 Room 1: Main Hall

Chairperson : 加藤 忠史 (Tadafumi Kato)
理化学研究所 脳科学総合研究センター
(RIKEN Brain Science Institute)

Fred Gage
Laboratory of Genetics, Salk Institute



PL3 Principles of Neural Ensemble Physiology and How They Apply to Brain-Machine Interfaces

Saturday, June 22 12:50~13:45 Room 1 : Main Hall

Chairperson : 五味 裕章 (Hiroaki Gomi)
NTTコミュニケーション科学基礎研究所 (NTT Communication Science Laboratories)
柴田 智広 (Tomohiro Shibata)
奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科
(NARA Institute of Science and Technology, Graduate School of Information Science)

Miguel Nicolelis
Duke University Medical Center

8:45~10:45 Room 1 (Main Hall)

S1-1-1	動物の適応行動における手綱核研究の最前線 Role of the habenula in regulation of the adaptive behaviors	
Organizers	岡本 仁(Hitoshi Okamoto)	理化学研究所 脳科学総合研究センター (RIKEN, Brain Science Institute)
	相澤 秀紀(Hidenori Aizawa)	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 (Tokyo Medical and Dental University, Medical Research Institute)

14:00~16:00 Room 1 (Main Hall)

S1-1-2	光による神経細胞機能制御 Optical control of neuronal function	
Organizers	実吉 岳郎(Takeo Saneyoshi)	理化学研究所 脳科学総合研究センター (RIKEN Brain Science Institute)
	松田 信爾(Shinji Matsuda)	慶應義塾大学 医学部生理学教室 (Department of Physiology, Keio University School of Medicine)

8:45~10:45 Room 2 (Annex 1)

S1-2-1	神経炎症：脳内環境の破綻がもたらす疾患研究のフロンティア Neuroinflammation: Brain environment in disease	
Organizers	山中 宏二(Koji Yamanaka)	理化学研究所脳科学総合研究センター (RIKEN Brain Science Institute)
	樋口 真人(Makoto Higuchi)	放射線医学総合研究所 (Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences)

14:00~16:00 Room 2 (Annex 1)

S1-2-2	海馬-嗅内皮質系における認知記憶情報のダイナミクス Dynamics of memory and cognitive representations in the hippocampal-entorhinal network	
Organizers	佐藤 正晃(Masaaki Sato)	理化学研究所脳科学総合研究センター (RIKEN Brain Science Institute)
	田代 歩(Ayumu Tashiro)	ノルウェー科学技術大学 (Norwegian University of Science and Technology)

17:00~19:00 Room 2 (Annex 1)

S1-2-3	大脳皮質と海馬の抑制性細胞の機能解析 Inhibitory Neuron Function in Neocortex and Hippocampus	
Organizers	窪田 芳之(Yoshiyuki Kubota)	生理学研究所 (National Institute for Physiological Sciences)
	Elly Nedivi	Massachusetts Institute of Technology

8:45~10:45 Room 3 (Annex 2)

S1-3-1	神経回路の構築：発生学から再生戦略へ Neural circuit formation: From developmental biology to repair strategy	
Organizers	竹居光太郎(Kohtaro Takei)	横浜市立大学医学部生命医科学部門 (Div. of Medical Life Sciences, Yokohama City Univ. School of Medicine)
	上口 裕之(Hiroyuki Kamiguchi)	理化学研究所脳科学総合研究センター神経成長機構研究チーム (Lab. of Neuronal Growth Mechanisms, RIKEN Brain Science Institute)

14:00~16:00 Room 3 (Annex 2)

S1-3-2	理事会企画シンポジウム 「統合失調症の分子病態と治療：原因解明と治療法開発の戦略とは」 Molecular pathophysiology and therapy of schizophrenia: Strategy for elucidation of causality and development of new treatment	
Organizer	橋本 亮太(Ryota Hashimoto)	大阪大院・連合小児発達・子どものこころ (Mol Res Cent, United Grad Sch of Child Dev, Osaka Univ, Suita)

S1-3-3	感覚情報の統合と情動行動表出の脳神経基盤 Neural mechanisms for integration of sensory information and a pathway to emotion and behaviour	
Organizers	東原 和成 (Kazushige Touhara)	東京大学・大学院農学生命科学研究科・応用生命化学専攻 (Department of Applied Biological Chemistry, The University of Tokyo)
	富永 真琴 (Makoto Tominaga)	自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター (Division of Cell Signaling, Okazaki Institute for Integrative Bioscience)

S1-4-1	哺乳類大脳皮質の進化—新たな研究戦略の展開 Evolution of the mammalian cerebral cortex -New research strategies	
Organizers	野村 真 (Tadashi Nomura)	京都府立医科大学・大学院神経発生生物学 (Dpt Dev Neurobiol, Kyoto Pref. Univ. Med.)
	新井 洋子 (Yoko Arai)	フランス国立科学研究センター ジャコブ・モノー研究所 (INSTITUT JACQUES-MONOD, CNRS UMR 7592, Université Paris Diderot)

S1-4-2	脳の確率的な計算原理 Probabilistic Principles of Brain Computation	
Organizers	坪 泰宏 (Yasuhiro Tsubo)	理化学研究所脳科学総合研究センター (RIKEN BSI)
	深井 朋樹 (Tomoki Fukai)	理化学研究所脳科学総合研究センター (RIKEN BSI)

S1-4-3	認知機能向上及び障害のメカニズム—分子、細胞、回路レベルの解析から Enhancement and dysfunction of cognitive function at the molecular, cellular and circuit levels	
Organizers	喜田 聡 (Satoshi Kida)	東京農業大学応用生物科学部バイオサイエンス学科 (Department of Bioscience, Tokyo University of Agriculture)
	尾藤 晴彦 (Haruhiko Bito)	東京大学大学院医学系研究科 (Graduate School of Medicine, The University of Tokyo)

S1-5-1	電位依存性イオンチャネル研究のフロンティア：ホジキン・ハックスレーから60年を経て Frontiers of Voltage-gated Ion Channels: At 60 year after the discovery in Squid Giant Axon	
Organizers	岡村 康司 (Yasushi Okamura)	大阪大学大学院医学系研究科統合生理学 (Graduate School of Medicine, Osaka University)
	御園生裕明 (Hiroaki Misonou)	同志社大学 脳科学研究科 (Graduate School of Brain Science, Doshisha University)

S1-5-2	メディカルガスによる酸化ストレス耐性シグナリングと神経系保護および老化遅延 Neuroprotection and slow aging induced by oxidative stress-resistant signaling driven by medical gas	
Organizers	野田 百美 (Mami Noda)	九州大学・大学院・薬学研究院・病態生理学分野 (神経化学会会員・評議員) (Kyushu University)
	大野 欽司 (Kinji Ohno)	名古屋大学大学院医学系研究科 神経遺伝情報学 (Nagoya University Graduate School of Medicine, Division of Neurogenetics)

S1-5-3	概日リズム睡眠障害の神経分子機構 Neuromolecular mechanism of circadian rhythm sleep disorders	
Organizers	岡村 均 (Hitoshi Okamura)	京都大学大学院薬学研究科医薬創成情報科学専攻 (Kyoto University Graduate School of Pharmaceutical Sciences)
	肥田 昌子 (Akiko Hida)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所精神生理研究部 (NCNP National Institute of Mental Health Department of Psychophysiology)

8:45~10:45 Room 1 (Main Hall)

S2-1-1	ISN/JSN共催シンポジウム「シナプス再編におけるグリア細胞の役割」 Glia-mediated synaptic remodeling	
Organizers	小泉 修一 (Schuichi Koizumi)	山梨大学医学部薬理学 (Dept Neuropharmacol, Facul Med, Univ Yamanashi)
	鍋倉 淳一 (Junichi Nabekura)	自然科学研究機構 生理科学研究所 (National Institute for Physiological Sciences)
	Monica J. Carlson	Center for Glial-Neuronal Interactions, School of Medicine, University of California, Riverside

14:00~16:00 Room 1 (Main Hall)

S2-1-2	空間・恐怖記憶回路の生物学的基盤 (The biological basis of circuits of space and fear) The Circuits of Space and Fear	
Organizers	Thomas J. McHugh	理化学研究所脳科学総合研究センター (RIKEN Brain Science Institute)
	渡部 文子 (Ayako M. Watabe)	東京慈恵会医科大学医学研究科・研究対応部門細胞・統合神経科学 (Jikei University School of Medicine)

17:00~19:00 Room 1 (Main Hall)

S2-1-3	神経疾患・損傷研究モデルとしての霊長類における神経科学的研究 Neuroscience Researches on non-human primates as a model system to study the neural disease and damage	
Organizers	Douglas P. Munoz	Centre for Neuroscience Studies, Queen's University
	伊佐 正 (Tadashi Isa)	自然科学研究機構生理学研究所 (National Institute for Physiological Sciences)

8:45~10:45 Room 2 (Annex 1)

S2-2-1	大脳皮質回路の動作原理解明への最前線 Uncovering functional principles of cortical circuits	
Organizers	細谷 俊彦 (Toshihiko Hosoya)	理化学研究所脳科学総合研究センター (RIKEN Brain Science Institute)
	谷口 弘樹 (Hiroki Taniguchi)	マックスプランクフロリダ研究所 (Max Planck Florida Institute)

14:00~16:00 Room 2 (Annex 1)

S2-2-2	神経系におけるRNA研究の新たな展開: RNAの機能、代謝、病態への関与 RNA Function, RNA Metabolism and Neurological Diseases	
Organizers	河原 行郎 (Yukio Kawahara)	大阪大学大学院医学系研究科 (Graduate School of Medicine, Osaka University)
	株田 智弘 (Tomohiro Kabuta)	国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 (National Institute of Neuroscience, NCNP)

17:00~19:00 Room 2 (Annex 1)

S2-2-3	奨励賞受賞者シンポジウム「繊毛と神経機能」 JSN Distinguished Young Investigator Award Lecture: Emerging roles of primary cilia in neuronal function	
Organizer	熊本奈都子 (Natsuko Kumamoto)	名古屋市立大学大学院医学研究科機能組織学 (Department of Neurobiology and Anatomy, Graduate School of Medical Sciences and Medical School, Nagoya City University)

8:45~10:45 Room 3 (Annex 2)

S2-3-1	古くて新しいGABAの機能~最新研究から見てきた神経障害の新たな分子基盤~ GABA: An old player provides novel insights into molecular basis of neurological disorders	
Organizers	石橋 仁 (Hitoshi Ishibashi)	生理学研究所生体恒常機能発達機構研究部門 (Division of Homeostatic Development, National Institute for Physiological Sciences)
	照沼 美穂 (Miho Terunuma)	(Tufts University School of Medicine (Boston, USA))

14:00~16:00 Room 3 (Annex 2)

S2-3-2	計算論的感覚運動制御とリハビリテーションの統合 Integration of computational sensorimotor control and rehabilitation	
Organizers	大須理英子 (Rieko Osu) 株式会社国際電気通信基礎技術研究所 (ATR Computational Neuroscience Laboratories) 田中 宏和 (Hirokazu Tanaka) 北陸先端科学技術大学院大学 (Japan Advanced Institute of Science and Technology)	

17:00~19:00 Room 3 (Annex 2)

S2-3-3	経験・学習依存的な情動変化の神経回路基盤とその破綻 Neural circuits of experience dependent emotional change	
Organizers	野村 洋 (Hiroshi Nomura) 東京大学薬学部薬品作用学研究室 (Graduate School of Pharmaceutical Sciences, The University of Tokyo) 天野 大樹 (Taiju Amano) 理化学研究所脳科学総合研究センター (RIKEN Brain Science Institute)	

8:45~10:45 Room 4 (Room D)

S2-4-1	大脳新皮質構築と回路形成機構—哺乳類特有の脳構造はどのように作られるのか？ Neocortical Development and Circuit Formation - How is the Mammalian-Specific Brain Structure Formed?	
Organizers	仲嶋 一範 (Kazunori Nakajima) 慶應義塾大学医学部 (Keio University, School of Medicine) 花嶋かりな (Carina Hanashima) 理化学研究所発生・再生科学総合研究センター (RIKEN CDB)	

14:00~16:00 Room 4 (Room D)

S2-4-2	依存症発症メカニズムの脳科学 Brain science of onset of dependence	
Organizers	山田 清文 (Kiyofumi Yamada) 名古屋大学大学院医学系研究科 (Nagoya University School of Medicine) 橋本 恵理 (Eri Hashimoto) 札幌医科大学 (Sapporo Medical University)	

17:00~19:00 Room 4 (Room D)

S2-4-3	発話と音声知覚の脳情報処理 Neural mechanisms of speech production and perception	
Organizers	廣谷 定男 (Sadao Hiroya) NTTコミュニケーション科学基礎研究所 (NTT Communication Science Laboratories) Sophie Scott Institute of Cognitive Neuroscience, University College London	

8:45~10:45 Room 5 (Room E)

S2-5-1	感覚と運動は切り離せない—局所回路からBMIまで Fill missing links between sensory and motor processing -Viewpoints from microcircuit to BMI	
Organizers	関 和彦 (Kazuhiko Seki) 国立精神・神経センター (National Center of Neurology and Psychiatry) 五味 裕章 (Hiroaki Gomi) NTTコミュニケーション科学基礎研 (NTT Communication Science Laboratories)	

14:00~16:00 Room 5 (Room E)

S2-5-2	中枢神経疾患治療に対するトランスレーショナルリサーチの現状とその課題 Current state and issue of translational research for CNS repair	
Organizers	田口 明彦 (Akihiko Taguchi) 先端医療振興財団 (Institute of Biomedical Research and Innovation) 松山 知弘 (Tomohiro Matsuyama) 兵庫医科大学 (Hyogo College of Medicine)	

17:00~19:00 Room 5 (Room E)

S2-5-3	基礎臨床統合シンポジウム (日本神経科学学会将来計画委員会・臨床連携WG合同企画) 「基礎・臨床連携の推進に向けて：現状の課題と今後の展望」 Challenges and perspectives to promote integration of basic and clinical neuroscience	
Organizers	加藤 忠史 (Tadafumi Kato) 理化学研究所脳科学総合研究センター (RIKEN Brain Science Institute) 貴島 晴彦 (Haruhiko Kishima) 大阪大学医学系研究科脳神経外科 (Department of Neurosurgery, Osaka University Graduate School of Medicine)	

8:45~10:45 Room 1 (Main Hall)

S3-1-1

発達障害の病態理解に向けた統合的アプローチ

Integrative approach towards understanding pathophysiology of developmental brain disorders

Organizer 内匠 透(Toru Takumi) 広島大学医学部 (Hiroshima University School of Medicine)

14:00~16:00 Room 1 (Main Hall)

S3-1-2

社会神経科学：社会的シグナルと意思決定

Social Neuroscience: Social Signal and Decision Making

Organizers 松田 哲也(Tetsuya Matsuda) 玉川大学脳科学研究所 (Tamagawa University Brain Science Institute)
高橋 英彦(Hidehiko Takahashi) 京都大学大学院医学研究科精神医学 (Department of Psychiatry, Kyoto University Graduate School of Medicine)

17:00~19:00 Room 1 (Main Hall)

S3-1-3

ヒト神経細胞と神経変性疾患 —iPS、iN細胞の未来—

Human Induced Neuronal Cells and Neurodegenerative Diseases -The Next Stage of iPS and iN Cells in Neuroscience Field-

Organizers 井上 治久(Haruhisa Inoue) 京都大学iPS細胞研究所 臨床応用研究部門 神経変性研究チーム (Center for iPS Cell Research and Application (CiRA), Kyoto University)
藤田 亮介(Ryousuke Fujita) コロンビア大学 病理学・細胞生物学分野 (Departments of Pathology and Cell biology, Columbia University)

8:45~10:45 Room 2(Annex 1)

S3-2-1

神経化学・生物精神の共催シンポジウム「気分障害におけるグリアの異常」

Joint Symposium of the Japanese Society of Neurochemistry and Japanese Society of Biological Sciences

Organizer 神庭 重信(Shigenobu Kanba) 九州大学医学研究院 精神病態医学分野 (Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University)

14:00~16:00 Room 2(Annex 1)

S3-2-2

エピゲノムで理解する — 神経発生から精神疾患まで —

Epigenetic regulations — From the neural development to psychiatric disorders —

Organizers 等 誠司(Seiji Hitoshi) 滋賀医科大学生理学講座統合臓器生理学 (Department of Physiology, Shiga University of Medical Science)
岩本 和也(Kazuya Iwamoto) 東京大学大学院医学系研究科分子精神医学講座 (Department of Molecular Psychiatry, Graduate School of Medicine, the University of Tokyo)

17:00~19:00 Room 2(Annex 1)

S3-2-3

日加シンポジウム「脳画像技術の進歩と精神機能およびその障害の研究への応用」

5th Japan-Canada Symposium on Innovations in Neuroscience:

Progress in neuroimaging techniques and its application to human mental function and dysfunction

Organizers Anthony G. Phillips University of British Columbia
定藤 規弘(Norihiro Sadato) 自然科学研究機構生理学研究科大脳皮質機能研究系心理生理学研究部門 (Division of Cerebral Integration, National Institute for Physiological Sciences)

8:45~10:45 Room 3(Annex 2)

S3-3-1

回路の形成と可塑性の統合的理解へのフロンティア

Toward comprehensive understanding of circuit formation and plasticity

Organizers 櫻井 武(Takeshi Sakurai) 京都大学 (Kyoto University)
河崎 洋志(Hiroshi Kawasaki) 金沢大・医・脳細胞遺伝 (Grad Sch of Med, Kanazawa Univ)

14:00~16:00 Room 3 (Annex 2)

S3-3-2	前頭葉と抑制機能：反応抑制研究の現在と未来 The frontal lobe and inhibitory function: Present and future of response inhibition research	
Organizers	小西 清貴 (Seiki Konishi)	東京大学医学系研究科統合生理学教室 (Dept Physiology, The University of Tokyo School of Medicine)
	地村 弘二 (Koji Jimura)	東京工業大学精密工学研究所 (Prec Intell Lab, Tokyo Inst Tech)

17:00~19:00 Room 3 (Annex 2)

S3-3-3	多様な動物行動を規定する大脳基底核神経回路機構 Basal ganglia circuit mechanisms regulating a variety of animal behaviors	
Organizers	疋田 貴俊 (Takatoshi Hikida)	京都大学大学院医学研究科 (Kyoto University Graduate School of Medicine)
	佐野 裕美 (Hiromi Sano)	生理学研究所 (National Institute for Physiological Sciences)

8:45~10:45 Room 4 (Room D)

S3-4-1	高次元系のための確率的状態推定に基づいた強化学習 Reinforcement learning for high-dimensional systems based on stochastic state estimation	
Organizers	森本 淳 (Jun Morimoto)	ATR脳情報研究所 (ATR Computational Neuroscience Labs)
	内部 英治 (Eiji Uchibe)	沖縄先端科学技術大学院大学 (OIST) (Okinawa Inst. Of Science and Tech.)

14:00~16:00 Room 4 (Room D)

S3-4-2	見て調べる神経回路機能のダイナミクス：再編成と変調 Optical approaches to neuronal circuit dynamics in health and disease	
Organizers	富永 貴志 (Takashi Tominaga)	徳島文理大学香川薬学部 (Tokushima Bunri University, Kagawa Sch Pharm Sci)
	種村健太郎 (Kentaro Tanemura)	東北大学大学院農学研究科 (Tohoku University, Graduate School of Agricultural Science)

17:00~19:00 Room 4 (Room D)

S3-4-3	家族関係を支える神経生物学的基盤 Neurobiological basis of family relationship	
Organizers	篠原 一之 (Kazuyuki Shinohara)	長崎大学医学部第二生理学教室 (Nagasaki University, Medical School)
	黒田 公美 (Kumi O. Kuroda)	理化学研究所 脳科学総合研究センター 黒田研究ユニット (Unit for Affiliative Social Behavior, RIKEN Brain Science Institute)

8:45~10:45 Room 5 (Room E)

S3-5-1	男女共同参画推進委員会シンポジウム 「次世代の担い手たちが創る神経科学の新しい潮流」 The Gender Equality Committee Program: Trends in Neuroscience created by young researchers	
Organizers	富永 真琴 (Makoto Tominaga)	生理学研究所 細胞生理研究部門 (Division of Cellular Signal, National Institute for Physiological Sciences)
	西 真弓 (Mayumi Nishi)	奈良県立医科大学 第一解剖学 (Department of Anatomy and Cell Biology, Nara Medical University)

14:00~16:00 Room 5 (Room E)

S3-5-2	摂食行動の神経制御機構 Neural control of feeding behaviors	
Organizers	井上 富雄 (Tomio Inoue)	昭和大学歯学部口腔生理学講座 (Department of Oral Physiology, Showa University School of Dentistry)
	高橋 和貴 (Kazutaka Takahashi)	シカゴ大学有機体生物学解剖学科 (University of Chicago, Department of Organismal Biology and Anatomy)

17:00~19:00 Room 5 (Room E)

S3-5-3	ブレインバンク死後脳を用いた神経生物学的研究 Neurobiological Study of Postmortem Brain from Brain Bank	
Organizer	村山 繁雄 (Shigeo Murayama)	東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンク (Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology)

O3-8-3

神経化学教育口演セッション1

Neurochemistry Educational Oral Session 1

chairpersons	米田 幸雄 (Yukio Yoneda)	金沢大学医薬保健研究域薬学系 (Pharmaceutical and Health Sciences Kanazawa University College of Medical)
	村松里衣子 (Rieko Muramatsu)	大阪大学大学院医学系研究科 分子神経学 (Department of Molecular Neuroscience Graduate School of Medicine/ Graduate School of Frontier Biosciences, Osaka University)

O3-8-3-1

AAVベクター血管内投与による霊長類の広範な中枢神経領域への遺伝子導入

Widespread transduction of neurons in the primate brain using intrathecal injection of AAV vectors

飯田 麻子¹ (Asako Iida), 滝野 直美¹ (Naomi Takino), 宮内 ひとみ¹ (Hitomi Miyauchi),

柴田 宏昭² (Hiroaki Shibata), 小野 文子³ (Fumiko Ono), 村松 慎一¹ (Shin-ichi Muramatsu)

¹自治医科大学大学院 医学研究科 神経内科学 (Dept Neurology, Jichi Medical Univ, Tochigi, Japan)

²医薬基盤研究所 つくば霊長類医学研究センター (Primate Research Center, National Institute of Biomedical Innovation, Ibaraki, Japan)

³予防衛生協会 研究支援企画部 (The Corporation for Production and Research of Laboratory Primates, Ibaraki, Japan)

O3-8-3-2

マウス神経系前駆細胞において膜輸送体OCTN1を介したエルゴチオネインの取り込みは神経細胞への分化能を促進する

Solute carrier OCTN1-mediated ergothioneine uptake promotes neuronal differentiation in mouse neural progenitor cells

石本 尚大 (Takahiro Ishimoto), 中道 範隆 (Noritaka Nakamichi), 細谷 拓史 (Hiroshi Hosotani),

杉浦 智子 (Tomoko Sugiura), 加藤 将夫 (Yukio Kato)

金沢大学大学院 医学系研究科 創薬科学専攻 (Faculty of Pharmacy, Kanazawa University, Kanazawa)

O3-8-3-3

新規化合物Densosominはvimentinを分泌するアストロサイトを介して、脊髄損傷後の軸索伸展を促進する

A novel compound, Densosomin, promotes axonal growth via astrocytes secreting vimentin after spinal cord injury

執行 美智子¹ (Michiko Shigyo), 勅使川原 匡¹ (Kiyoshi Teshigawara), 久保山 友晴¹ (Tomoharu Kuboyama),

長田 愛子¹ (Aiko Nagata), 杉本 健二² (Kenji Sugimoto), 松谷 裕二² (Yuji Matsuya), 東田 千尋¹ (Chihiro Tohda)

¹富山大学 和漢医薬学総合研究所 神経機能学分野 (Div of Neuromedical Science, Inst of Natural Med, Univ of Toyama)

²富山大学 薬学部 薬品製造学研究室 (Lab of Organochem Design and Synthesis, Fac of Pharmaceutical Sci, Univ of Toyama)

O3-8-3-4

NecdinとBmi1の拮抗的相互作用による神経幹細胞の増殖制御

Regulation of neural stem cell proliferation via antagonistic interplay between necdin and Bmi1

南出 良平 (Ryohei Minamide), 長谷川 孝一 (Koichi Hasegawa), 藤原 一志郎 (Kazushiro Fujiwara),

吉川 和明 (Kazuaki Yoshikawa)

大阪大学大学院 蛋白質研究所 神経発生制御研究室

(Laboratory of Regulation of Neuronal Development, Institute for Protein Research, Osaka University)

O3-8-4

神経化学教育口演セッション2

Neurochemistry Educational Oral Session 2

chairpersons	馬場 広子 (Hiroko Baba)	東京薬科大学 (Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences)
	渡部 和彦 (Kazuhiko Watabe)	東京都医学研究機構神経変性病理 (●Nodata●)

O3-8-4-1

Arctic Amyloid β のCHRNA7受容体に対する作用検証

Arctic mutant A β affects CHRNA7's functions

キョウ 嘩¹ (Ju Ye), 朝日 透² (Toru Asahi), 澤村 直哉² (Naoya Sawamura)

¹早大院・理工 (Dept Sci & Eng, Waseda Univ, Tokyo) ²早大・ASMeW (ASMeW, Waseda Univ.)

O3-8-4-2 ニューロプシンによるErbB4 シグナリングの制御
Neuropsin-mediated regulation of ErbB4 signaling

河田 美穂(Miho Kawata), 石川 保幸(Yasuyuki Ishikawa), 塩坂 貞夫(Sadao Shiosaka)
 奈良先端科学技術大学院大学・バイオサイエンス・神経機能科学(Laboratory of Functional Neuroscience, Graduate School of Biological Science, Nara Institute of Science and Technology, Nara, Japan)

O3-8-4-3 ALSマウスモデルにおけるコネクシン蛋白の神経病理学的検討
Connexin gap junction pathology in the SOD1 transgenic mouse model of amyotrophic lateral sclerosis (ALS)

真崎 勝久(Katsuhisa Masaki), 崔 訳文(Yiwen Cui), 山崎 亮(Ryo Yamasaki), 林 信太郎(Shintaro Hayashi),
 長柄 祐子(Yuko Nagara), 河村 真実(Mami Kawamura), 佐藤 真也(Shinya Sato),
 大八木 保政(Yasumasa Ohyagi), 吉良 潤一(Jun-ichi Kira)
 九州大学大学院医学研究院神経内科学
 (Department of Neurology, Neurological Institute, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu university, Fukuoka, Japan)

O3-8-4-4 FABP3はドパミン神経細胞における α -synucleinの蓄積を増悪する
FABP3 aggravates α -synuclein accumulation in the dopaminergic neurons

矢吹 梯(Yasushi Yabuki), 塩田 倫史(Norifumi Shioda), 小林 由佳(Yuka Kobayashi),
 大和田 祐二(Yuji Owada), 福永 浩司(Kohji Fukunaga)
¹東北大学大学院薬学研究科薬理学分野(Department of Pharmacology, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Tohoku University, Sendai, Japan)
²山口大学大学院 医学系研究科 器官解剖学分野(Department of Organ Anatomy, Yamaguchi University Graduate school of Medicine, Ube, Japan)

16:00~17:00 Room 8 (Room C1)

O3-8-5 神経化学教育口演セッション3 Neurochemistry Educational Oral Session 3	
chairpersons	仙波恵美子(Emiko Senba) 和歌山県立医科大学医学部 第二解剖 (Department of Anatomy & Neurobiology Wakayama Medical College) 田口 明子(Akiko Taguchi) 宮崎大学医学部 神経内分泌代謝学分野 (Faculty of Medicine, University of Miyazaki)

O3-8-5-1 アルドステロン短期投与による神経機能制御
Aldosterone enhanced release of neurotransmitter in cultured neurons

岡本 明理^{1,2}(Akari Okamoto), 沼川 忠広^{2,3}(Tadahiro Numakawa), 安達 直樹^{2,3}(Naoki Adachi),
 増尾 好則¹(Yoshinori Masuo), 功刀 浩^{2,3}(Hiroshi Kunugi)
¹東邦大学 理学部 生物学科(Dep. Bio, Univ of Toho, Chiba, Japan) ²国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 疾病研究第三部
 (Department of Mental Disorder Research, National Institute of Neuroscience, NCNP, Japan) ³戦略的創造研究推進事業、科学技術振興機構
 (CREST, JST, Saitama, Japan)

O3-8-5-2 ラットメラニン凝集ホルモン受容体1の構造活性相関-Gタンパク質選択機構
The structure-activity relationship in rat melanin-concentrating hormone receptor 1 -Structural determinants for G-protein selectivity

濱本 明恵(Akie Hamamoto), 小林 勇喜(Yuki Kobayashi), 斎藤 祐見子(Yumiko Saito)
 広島大学大学院 総合科学研究科 生命科学(Graduate School of Integrated Arts and Sciences, Hiroshima University, Hiroshima)

O3-8-5-3 シェーファー側枝LTPに対するパルブアルブミン陽性神経細胞を介したニューロプシンシグナリングの関与
Involvement of parvalbumin neurons on Schaffer-collateral long term potentiation via neuropsin signaling

鈴木 春満(Harumitsu Suzuki), 石川 保幸(Yasuyuki Ishikawa), 塩坂 貞夫(Sadao Shiosaka)
 奈良先端大 バイオ 神経機能科学(Dep. Bio Sci, NAIST, Nara)

O3-8-5-4 哺乳類のBrn-2/Pou3f2は子育ておよび社会性行動に重要である—先祖返りマウスの解析から脳の進化を探る—
Mammalian Brn-2/Pou3f2 is important for the parenting and social behaviors - the research on the brain evolution with the analysis of reversion mice -

矢田 紗織¹(Saori Yada), 那須 信¹(Makoto Nasu), 伊藤 円¹(Meguru Ito), 吉田 進昭²(Nobuaki Yoshida),
 植田 信太郎(Shintaro Ueda)
¹東大・院理・生科(Dep. of Biol. Sci., Grad. Sch. of Sci., The Univ. of Tokyo, Tokyo) ²東大・医科研・システム疾患モデル研究センター
 (Cen. of Exp. Med. and Sys. Biol., Inst. Of Med. Sci., The Univ. of Tokyo)

03-8-6

神経化学教育口演セッション4

Neurochemistry Educational Oral Session 4

chairpersons

竹林 浩秀(Hirohide Takebayashi)

新潟大学医歯学総合研究科 神経生物・解剖学分野 (Division of Neurobiology and Anatomy Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences)

味岡 逸樹(Itsuki Ajioka)

東京医科歯科大学脳統合機能研究センター (The Center for Brain Integration Research Tokyo Medical and Dental University)

03-8-6-1

遺伝子コードされた多色カルシウム指示タンパクを用いた、大脳新皮質における明確に区別される2種類の細胞内カルシウム動態とその生物学的意義の解明

Two patterns of Ca^{2+} dynamics associated with distinct cellular populations and behaviors in the neocortical ventricular zone revealed by multi-color imaging with genetically-encoded indicators佐合 健¹(Ken Sagou), 松田 知己²(Tomoki Matsuda), 永井 健治²(Takeharu Nagai), 宮田 卓樹¹(Takaki Miyata)¹名古屋大学 医学系研究科 細胞生物学(Department of Anatomy and Cell Biology, Nagoya University Graduate School of Medicine)²大阪大学 産業科学研究科 生体分子機能科学研究分野(The Institute of Scientific and Industrial Research, Osaka University)

03-8-6-2

Necdinは脳室下帯における神経前駆細胞の増殖を制御する

Necdin regulates neural progenitor cell proliferation in the subventricular zone

橋長 秀典(Hidenori Hashinaga), 長谷川 孝一(Koichi Hasegawa), 藤原 一志郎(Kazushiro Fujiwara),

吉川 和明(Kazuaki Yoshikawa)

大阪大・蛋白質研・神経発生制御(Lab. of Regulation of Neuronal Development, Inst. for Protein Res., Osaka Univ.)

03-8-6-3

リーリンシグナルは受容体を介して神経細胞移動を制御する

Reelin signaling is involved in the migratory process of cortical neurons in addition to their layer formation in developing cerebral cortex

廣田 ゆき(Yuki Hirota), 久保 健一郎(Ken-ichiro Kubo), 仲嶋 一範(Kazunori Nakajima)

慶應義塾大学 医学部 解剖学(Dep. Anatomy, Keio Univ, Tokyo)

03-8-6-4

軸索ガイダンス因子FLRT2による視床大脳皮質路の形成制御

Repulsive guidance molecule FLRT2 regulates development of the thalamocortical projections

山岸 覚(Satoru Yamagishi), 佐藤 康二(Koji Sato)

浜松医科大学解剖学講座神経機能学分野(Dep. Anatomy, Hamamatsu University School of Medicine, Hamamatsu, Japan)

参加者へのご案内

1. 参加受付について

◆参加受付の場所

6月20日(木)～22日(土)正面玄関ロビー

6月23日*(日) アネックスロビー

*23日は第11回世界生物学的精神医学会国際会議(WFSBP)との共催プログラムのみ開催

◆事前参加登録がお済みの方へ

<5月22日までに参加登録費のお支払いを完了された方>

事前に①参加証(ネームカード)、②大会プログラム集、③コンgresバッグ引換券をお送りしております。参加証を必ずご着用の上、ご来場ください。ネームカードホルダーは受付付近の記名台にご用意しております。参加証のない方の入場は、固くお断りいたします。コンgresバッグは当日お渡ししますので、国立京都国際会館 正面玄関の「コンgresバッグ引換所」にお立ち寄りください。

<5月22日以降に参加登録費のお支払いをされた方>

①参加証(ネームカード)、②大会プログラム集、③コンgresバッグ引換券は、当日会場の「事前参加登録受付」でお渡しします。

<海外からの参加者の方>

①参加証(ネームカード)、②大会プログラム集、③コンgresバッグ引換券は、当日会場の「海外参加者受付」でお渡しします。

◆当日参加登録をされる方へ

当日参加登録をされる方は、国立京都国際会館 正面玄関ロビーの「当日参加登録受付」にてご登録ください。

記名台に用意しております「Registration Form」に必要事項をご記入の上、当日参加登録受付へお越しください。お支払いは全て現金にてお願いいたします。

●参加費と引き替えに①参加証(ネームカード)、②大会プログラム集、③コンgresバッグ引換券をお渡しいたします。会場内では、必ず参加証をご着用ください。

●参加費は下記の通りです。

[会 員]

・ 一 般 19,000円(不課税)
・ 大学院生 3,000円(不課税)
・ 学部学生 無 料

[非会員]

・ 一 般 24,000円(税込)
・ 大学院生 5,000円(税込)
・ 学部学生 無 料

注1)大学院生および学部学生の方は受付にて学生証をご提示ください。

注2)筆頭著者として発表を行わない学部学生の参加費は無料です。

注3)参加費にランチョンセミナーとランチタイムミニシンポジウムの弁当代は含まれておりません。

注4)WFSBPに事前登録された学部学生、大学院生はNeuro2013の参加費免除となります。(但し、Neuro2013での発表者は有料)

一般参加者はNeuro2013とWFSBPの参加費免除とはなりませんのでご注意ください。23日の共催プログラムに関してはNeuro2013、WFSBPのいずれかの参加証でご入場いただけます。

◆受付時間

6月20日(木) 7:30～18:00

6月21日(金) 8:00～19:30

6月22日(土) 8:00～18:00

6月23日(日) 8:00～13:00 *学会受付の場所がアネックスロビーに変更されます。

◆懇親会

本大会の懇親会は、先端で活躍されている研究者、およびこれからそれぞれの分野で活躍しようとする若手研究者(学部学生・大学院生・ポスドク含む)が集い、飲み物を片手に自由に交流できる会として開催します。プレナリー講演者やシンポジウムの演者の先生方にも参加を呼びかけますので、著名な研究者との会話のチャンスでもあります。Travel Award受賞者もお招きしています。世界各国の研究者との情報交換の場としてもご期待ください。

Neuro Social Reception

●日時:6月21日(金) 19:00~20:30

●会場: 国立京都国際会館 1F スワン

●参加費(当日料金) 一般 6,000円/大学院生 3,000円/学部学生 2,000円

2. 英文抄録

演題登録された方(一部を除く)の英文抄録は大会オンライン抄録集「JNS Meeting Planner」に掲載されます。本大会ホームページ(<http://www.neuro2013.org>)からご覧ください。印刷物としての配布はいたしません。なお、Neuroscience Research (Elsevier)のSupplemental Issueとしての発行は、印刷物/オンライン版とも一切いたしませんのでご了承ください。

3. 専門医・認定医・研修認定薬剤師の研修単位について

本大会への参加は、下記学会の専門医・認定医及び研修認定薬剤師の研修単位取得の対象予定となります。専門医・認定医の先生方はぜひご利用ください。

●日本神経学会

●日本精神神経学会

●日本小児神経学会

●日本老年精神医学会

●日本薬剤師研修センター

日本精神神経学会の「専門医資格更新にかかる研修ポイント」の取得は、「日本精神神経学会ポイント取得デスク」(国立京都国際会館 正面玄関の総合案内)で対応しております。受付スタッフに「精神科専門医認定試験合格者証(ポイントカード)」を提示してください。それ以外の学会については、Neuro2013の参加証および領収書を各自で各学会に提出し、単位申請してください。詳細はそれぞれの学会にお問い合わせください。

4. ランチョンセミナー・ランチタイムミニシンポジウムについて

お弁当数に限りがありますので、整理券を開催日の参加受付開始時刻と同時刻から先着順にランチョンセミナー・ランチタイムミニシンポジウム整理券デスク(国立京都国際会館メインホールロビー)にて配布いたします。配布は1人1日1枚となります。なお、参加証(ネームカード)のご提示が必要となります。また、教育講演の会場前で、軽食販売コーナーを設けております。是非ご利用ください。

5. 教育講演(EL1~10)について

ランチョンセミナーと同時時間帯にて開催する教育講演1~教育講演10は、軽食をとりながらの聴講が可能です。EL1 Ihan Chou (Nature Senior Editor)を除く教育講演は全て日本語で行われます。

ただし、軽食は有料販売となりますので、購入希望者は各会場前にて購入してください。

6. 呼び出し、伝言

会場内でのスライドおよび館内放送での呼び出しは行いません。参加受付付近のインフォメーションボードをご利用ください。

7. クローク

国立京都国際会館 メインホールロビーにクロークを設けますので、ご利用ください。

なお、貴重品・傘などはお預かりできませんのでご了承ください。

お荷物の受取状況により正面玄関脇のクロークも随時開設します。

クローク開設時間

6月20日(木) 7:30～19:15

6月21日(金) 8:00～21:00

6月22日(土) 8:00～19:15

6月23日(日) 8:00～14:15

8. 企業展示・書籍販売

イベントホールにおいて企業展示を行います。なお、書籍販売は館内ロビーにおいて行います。

【展示時間】

6月20日(木) 9:00～18:00

6月21日(金) 9:00～18:00

6月22日(土) 9:00～17:00

9. インターネットについて

イベントホールおよび館内ロビーにて無線LANがご利用いただけます。なお、パスワードはございません。

10. ドリンクコーナーについて

会期中(6月20日～22日)イベントホールにドリンクコーナーを設けます。数に限りがありますのであらかじめご了承ください。

11. 軽食販売コーナー

会期中(6月20日～23日)アネックスロビー、教育講演会場前にてお弁当を販売いたします。是非ご利用ください。

12. お子様連れの参加者の方へ

本大会では「託児室」と「親子休憩室」を設置いたします。「託児室」には保育スタッフが常駐し、保護者の方が大会に参加される間、お子様をお預かりいたします。利用には事前予約が必要です。

【託児室】

託児室は、全国保育サービス協会正会員の株式会社アルファコーポレーションに委託しております。

マットや玩具などを備え、専門の保育スタッフがケアにあたります。

・対象：生後3ヶ月～小学6年生まで

・開室時間：6月20日(木) 8:00～18:30

6月21日(金) 8:30～19:30

6月22日(土) 8:30～19:30

※ご予約のない場合、お預かりできないことがございますのでご注意ください。

・開設場所：セキュリティのため、ご利用の方にのみお知らせします。

・料 金

① 1日料金：一人あたり3,000円(税込)

※兄弟での利用は2人目以降半額(2人なら4,500円(税込)、3人なら6,000円(税込))

② スポット料金：1時間あたり600円(税込) (合計4時間まで)

※5時間以上のご利用は1日料金とさせていただきます。

注1) 2010年より新たに1日利用枠と兄弟割引を設置し、長時間利用時の負担を抑えました。そのため、スポット利用時の1時間あたりの利用料金は、例年よりも割高になっていますが、ご理解の上、ご了承下さいますようお願い申し上げます。

注2) 事前予約をされた時間帯には、シッターの配置をしており、人件費が発生します。1日利用、スポット利用ともに、実際の利用時間ではなく、予約分の全額をお支払いくださいますようお願いいたします。なお、やむを得ない事情でお迎えが遅れる等、延長して利用した場合には、その分の利用料金を予約時間分に追加してお支払いください。

注3) 託児室運営費用の大部分は、他の参加者の皆様の理解と協力を得て、大会予算によってまかなわれています。託児室利用者の皆様にはご不便をおかけする点多いかと存じますが、限りある予算内で運営している状況をご推察いただき、何卒ご理解とご協力をくださいますようお願い申し上げます。

・受付締切：2013年6月12日(水)

・支払方法：当日払い(利用最終日に国立京都国際会館の総合案内にて現金でお支払いください)

・利用申し込み方法：

本大会ホームページ(<http://www.neuro2013.org/>)「託児室」のページの内容をご覧の上、株式会社アルファコーポレーションまでメールにてお申し込みください。受領後、株式会社アルファコーポレーションより、メールにてご連絡いたします。詳しくは本大会ホームページをご覧ください。

※ご予約内容の変更は、株式会社アルファコーポレーションまでご連絡ください。

※保育に関しては万全の体制を整えておりますが、万が一、保育者の責任に帰すべき事故が発生した場合には、株式会社アルファコーポレーションと保育者の2者によりこれを協議し、保険の範囲において対応いたします。

・昼食について：

託児室での調理は一切行いません。

原則として、お持ち込みいただいたお弁当・おやつ・飲み物(ビスケット・粉ミルクなど)はお預かりし、介助をいたしますが、冷蔵庫はございませんので、常温保存が可能なものをご持参ください。これにより万が一、食中毒や体調不良が生じた場合については一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

【親子休憩室】

マットや玩具、ついたてなどをご用意しております。お子様とご一緒のお食事や休憩、授乳など、ご自由にご利用ください。事前予約は不要です。親子休憩室に保育スタッフはおりません。ご利用の際は必ず保護者が付き添い、責任を持って安全に留意してください。

・開室日時：6月20日(木) 8:00～19:00

6月21日(金) 8:30～19:00

6月22日(土) 8:30～19:00

・開設場所：国立京都国際会館 会議室681 (6階)

・利用料金：無料

・その他：親子休憩室での万が一の事故や怪我の場合、委託会社による保険は適用されません。
また学会、本大会及び大会事務局は一切の責任を負いません。

13. 禁止事項

- ・会場内での撮影、録画、録音は禁止となっております。
- ・施設内は禁煙です。
- ・Twitter 等への発表内容の書き込みは控えください。

14. 関連行事

◆総会

《日本神経科学学会》

日 時： 6月21日(金)15:30～16:30

会 場： 会議室510 (5F)

総会議事に引き続き、各賞授賞式を行います。

1. 時實利彦記念賞授賞式
2. 日本神経科学学会奨励賞授賞式

《日本神経化学学会》

日 時： 6月21日(金)14:30～15:20

会 場： 第6会場/会議室B1 (2F)

総会議事に引き続き、神経化学学会最優秀奨励賞受賞講演を行います。

《日本神経回路学会》

日 時： 6月22日(土)15:00～16:00

会 場： 会議室510 (5F)

《Neuro Social》

日 時： 6月21日(金)19:00～20:30

会 場： スワン(1F)

15. 各種委員会

6月19日(水)

会合名	開催時間	会 場
記者説明会	11:00～12:00	2階 Room I
(化学) 理事会	13:00～17:00	2階 Room J
(科学) 理事会	14:00～17:00	2階 Room K

6月20日(木)

会合名	開催時間	会 場
(化学) 国際対応委員会	9:30～11:30	6階 Room 663
(科学) 大会小委員会	10:45～11:45	2階 Room J
(科学) 時實賞昼食会	11:45～12:45	5階 Room 554
(科学) NSR編集委員会	16:00～18:00	2階 Room J
(化学) 将来計画委員会	16:30～18:30	6階 Room 662
(化学) 研究助成金等候補者選考委員会	16:30～18:30	6階 Room 663
ブレインサイエンス振興財団夕食会 (塚原賞授賞式)	19:30～	グランドプリンスホテル京都 B1階「ローズルーム」
エルゼヴィア NeuroscienceResearch誌 レセプション<招待者のみ>	18:30～21:00	グランドプリンスホテル京都 B1階「比叡」

6月21日(金)

会合名	開催時間	会 場
(科学) 教育委員会	11:00～12:00	2階 Room J
(科学) 将来計画委員会	11:00～12:00	2階 Room K
(化学) 脳研究推進委員会	11:30～13:30 *昼食のご用意無し	6階 Room 662

(化学) 奨励賞選考委員会	11:30～13:30 *昼食のご用意無し	6階 Room 663
(科学) 実験動物使用者会議	11:45～12:45	5階 Room 510
(科学) 成茂基金授賞式/昼食会	11:45～12:45	5階 Room 554
(科学) 総会(時實賞授賞式)	15:30～16:30	5階 Room 510

6月22日(土)

会合名	開催時間	会 場
(科学) Neuroscience 2014実行委員会	7:45～ 8:45	2階 Room J
(科学) 科学コミュニケーション委員会	10:45～11:45	2階 Room J
(科学) 臨床連携WG委員会	10:45～11:45	2階 Room K
(化学) 出版・広報委員会	11:30～13:30 *昼食のご用意無し	6階 Room 663
(化学) シンポジウム企画委員会	11:30～13:30 *昼食のご用意無し	6階 Room 662
(科学) 男女共同参画委員会 情報交換座談会	11:45～12:45	5階 Room 510
(回路) 理事会	12:00～14:00	5階 Room 554
(化学) 利益相反委員会	13:30～15:00	6階 Room 663
(化学) ダイバーシティ推進委員会	13:30～15:00	6階 Room 662
(回路) 総会	15:00～16:00	5階 Room 510
(科学) NPO法人脳の世紀推進会議	11:45～12:45	5階 Room 555
(科学) 男女共同参画委員会	16:00～17:00	2階 Room J
(科学) 【脳科連】将来構想委員会	16:00～17:00	2階 Room K

16. プレスルーム

開設日時：6月20日(木)～22日(土) 場所：会議室506

◆プレスルームの趣旨および取材条件

日本神経科学大会の社会への広報活動として、報道機関に対する積極的な情報発信を行います。そのために、大会の認める範囲で、来場した記者の会場内での円滑な取材活動と、さらに興味のある発表者を呼んでのインタビュー等の充実した取材活動を支援すべく、会場内に取材用のプレスルームを確保します。

取材のために来場した報道関係者は、総合案内にて記者証(フリーランスライターは身分証明書と過去に媒体掲載の記事数点のコピー)を提示確認した上で、プレス登録をしていただきます。会場内では、大会事務局で交付したプレスカードまたは腕章を装着して取材活動を行っていただきます。報道関係者には、対象となる研究発表者をプレスルームに招いて取材していただきます。プレスルーム内では、発表者の了解の上で撮影・録音・インタビューをお願いします。口演会場およびポスター会場での、撮影・録音・インタビューは原則として認めていません。また、取材情報の整理・起稿入稿などの作業を行う場としてプレスルームを提供します。

17. 科学研究費助成事業(科学研究費補助金) 市民公開講座

「社会、脳、デザイン」

日 時：7月15日(月・祝) 14:00～17:00

会 場：東京大学/伊藤謝恩ホール(本郷キャンパス 伊藤国際学術研究センター内)

主 催：Neuro2013

(第36回日本神経科学大会、第56回日本神経化学会大会、第23回日本神経回路学会大会)

オーガナイザー・スピーカー：藤井 直敬(理化学研究所 脳科学総合研究センター)

スピーカー：山中 俊治(インダストリアル・デザイナー)、川畑 秀明(慶應義塾大学文学部心理学)

18. 若手研究者国際交流会

Neuro2013では、将来日本の神経科学の世界で活躍することが期待される若手研究者の国際交流を目的として、学会期間中に国際交流会を開催します。Neuro2013に演題登録のある、大学院生、ポスドク、若手PIの中から交流会への国内参加者を募集します。

会 場：国立京都国際会館 会議室510

日 時：6月19日(水) 17:00～19:00 (ポスター貼付けなど準備は16:00から)

※本大会開催前日に実施します。

参加者数：約50名(大学院生、学位取得のポスドク相当者、若手PI、助教相当職着任後5年以内の若手研究者(国籍、所属学会は問いません。海外への留学から一時帰国されている日本人若手研究者も応募可能です。))Neuro2013の事前参加登録者対象。

参 加 費：無料

開催内容：Travel Award を受賞し来日した海外からの若手研究者(10名)と共に、ポスターを用いて研究の議論を行います。

1. 交流会では軽食を用意します。飲食をしながら、オープンな雰囲気の中、研究議論や自己紹介などを行います。また本大会に海外から参加するPIレベルの研究者がディスカッサーとして参加する予定なので、若手研究者のみでなく一流研究者とも交流を持つ事が出来ます。
2. 若手研修者国際交流会でポスター掲示を希望される場合は、本大会で発表するポスターと同一のもので構いません。
3. 本大会の一般口演で発表する内容を、若手研修者国際交流会でポスター掲示をしても構いません。

19. 抄録検索・スケジュール作成システムについて

2012年度より、日本神経科学学会独自に構築した電子版英文抄録検索・閲覧システム「The JNS Meeting Planner」が導入されました。オンラインで全ての演題を、発表者名、所属、タイトル、抄録本文、発表形式、発表日時、会場などの項目から検索し、自分のスケジュールを作成することが出来ます。詳しい使用方法などは大会ホームページをご覧ください。

なお、大会終了後も引き続いて、学会ホームページより抄録は閲覧可能となります。

また、理化学研究所のニューロインフォマティクスチームが研究開発したRAST (Related Abstract Search Tools)や、ATRの開発チームによるiPhone用の抄録閲覧アプリも是非ご利用ください。

20. サテライト企画

1) 脳回路の複雑性に挑戦する先端のアプローチ

会期：2013年6月19日(水) 9:00～18:00

会場：京都大学 稲盛財団記念館

(京都市左京区吉田下阿達町46, 京阪電鉄「神宮丸太町駅」下車。川端通を北へ徒歩約5分)

主催：東京大学大学院新領域創成科学研究科

共催：文部科学省 科学研究費補助金 新学術領域研究

メゾスコピック神経回路から探る脳の情報処理基盤

理化学研究所 脳科学総合研究センター

座長：能瀬 聡直(東京大学大学院新領域創成科学研究科 複雑理工学専攻 教授)

シンポジスト：R. Clay Reid (Harvard Medical School)

Yi Zuo (University of California, Santa Cruz)

脳回路の機能単位として働く「メゾスコピック神経回路(メゾ回路)」に着目することにより脳機能の理解を目指す研究についての議論を行います。

お問合せ先： 理化学研究所 局所神経回路研究チーム

チームリーダー 細谷 俊彦 (hosoya@brain.riken.jp)

アシスタント 岸野みゆき (kishinomiya@riken.jp)

2) 第6回MCCS-Asiaシンポジウム開催計画

会期：2013年6月19日(水) 8:50~18:30

会場：国立京都国際会議場 アネックス1、2

主催：Molecular and Cellular Cognition Society (MCCS)-Asia

共催：新学術領域マイクロ精神病態

理研脳センター（岡野FIRSTプログラム）

オーガナイザー：喜田 聡（東京農業大学、教授）

林 康紀（理化学研究所脳センター、チームリーダー）

糸原 重美（理化学研究所脳センター、シニアチームリーダー）

予定講演者： Cristina M. Alberini (New York University, USA)

Angel Barco (CSIC, Spain)

Sumantra Chattarji (NCBS, India)

Jin-Hee Han (KAIST, Korea)

Satoshi Kida (Tokyo University of Agriculture)

Eric Klann (New York University, USA)

Minmin Luo (National Institute of Biological Sciences, China)

Thomas J. McHugh (RIKEN Brain Science Institute)

Hideyuki Okano (Keio University)

Todd C. Sacktor (SUNY Downstate Medical Center, USA)

Minoru Saitoe (Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science)

Alcino J. Silva (UCLA, USA)

Kaori Takehara-Nishiuchi (University of Toronto, Canada)

Moriel Zelikowsky (Caltech, USA)

認知や情動などの高次脳機能の理解には多面的な研究が必要であり、多様な専門性を有する研究者および学生が集い、個人的面識と共同研究の輪を広げ、自由闊達な議論を展開する場が必要です。このシンポジウムは、このような場としてアジア諸国で隔年開催しています。Molecular and Cellular Cognition Society (MCCS)は、このような活動をする母体として2002年に設立されました。

3) Molecular and cellular mechanisms of brain development and evolution

会期：June 19 (Wed.) 9:00~17:10

会場：Kyoto Prefectural University of Medicine Library Hall

410 Nakagoryo-cho, Seiwainguchi Teramachi Higashiiru, Kamigyo-ku, Kyoto City

主催：Noriko Osumi (Tohoku University School of Medicine)

Tadashi Nomura (Kyoto Prefectural University of Medicine)

4) 脳とソシアル: Dialogues between Masters

会期：2013年6月20日(木) 19:30～21:00

会場：国立京都国際会館 Room D

主催：新学術領域研究「学際的研究による顔認知メカニズムの解明」

司会：飯高 哲也 (名古屋大学大学院医学系研究科)

演者：岩田 誠 (東京女子医科大学名誉教授)

河村 満 (昭和大学医学部教授)

近年の神経科学における重要なテーマである、こころ、脳、社会の関係に関する議論を高名な神経内科医である2名の演者が行います。演者らは臨床経験、学術知識、文化・芸術などに関する造詣の深さから、いままでも数々の意義深い講演を行っております。今回はその両氏の対談形式で、セミナーを行うことが特徴です。話題は神経疾患の症状とこころや社会性の関係を広く扱い、顔認知と社会のかかわりについても、議論を深める予定です。司会を精神科医が務めることで、本邦で問題になっているこころの病気と脳機能に関する話題など心理学・教育学領域の研究者にも興味を及ぶようなセミナーにしたいと思います。

お問合せ先：飯高 哲也(名古屋大学 大学院医学系研究科 精神生物学)

Tel: 052-744-2282 / E-mail: iidaka@med.nagoya-u.ac.jp

5) 小脳の神経科学 ―分子生物学から認知科学まで―

The cerebellum -From molecular biology to cognitive science-

会期：2013年6月22日(土) 19:15～21:00

会場：国立京都国際会館 Room C-2

共催：INCF 日本ノード小脳プラットフォーム

後援：株式会社トミー精工

株式会社ナックイメージテクノロジー

座長：加藤 明 (東海大学)

オーガナイザー：狩野 方伸 (東京大学)

笥 慎治 (東京都医学総合研究所)

平田 豊 (中部大学)

山崎 匡 (電気通信大学)

シンポジスト：永雄 総一 (理研 BSI)

山崎 匡 (電気通信大学)

石川 太郎 (東京慈恵会医科大学)

松井 広 (東北大学・自然科学研究機構生理学研究所)

日本が世界をリードしてきた小脳研究の現状と今後の展開について、若手で気鋭の研究者を選び、分野を越えて最新のデータによる活発なディスカッションを行います。単に小脳の研究という限局した視点ではなく、要素的な研究同士が相乗効果をもたらす起点となるような議論を行なう予定です。基調講演には理研の永雄総一先生をお招きし、これまで携わってこられた多角的かつ包括的な御自身の研究について総括していただきます。本サテライトシンポジウムは INCF 日本ノード小脳プラットフォームの全面的な協力を受けて行われます。

お問合せ先：東海大学創造科学技術研究機構 加藤 明

Tel: 0463-58-1211 (内 5627) E-mail: akiraka@tokai-u.jp

6) 第6回国際局所神経回路会議 大脳皮質神経回路の機能的作動機構

会期：2013年6月24日(月)～26日(水)

会場：岡崎コンファレンスセンター

(愛知県岡崎市明大寺町字伝馬8-1 東岡崎駅下車 南に徒歩約10分)

主催：公益財団法人 井上科学振興財団

文部科学省 科学研究費補助金 新学術領域研究 伝達創成機構

自然科学研究機構 生理学研究所

座長：窪田 芳之 (自然科学研究機構 生理学研究所)

シンポジスト：Carl Petersen (BM研究所、スイス)

Elly Nedivi (MIT、米国)、Clay Reid (Allen研究所、米国)

Yang Dan (UCB、米国)、Yi Zuo (UCSC、米国)

Hannah Monyer (Heidelberg大学、ドイツ)

Thomas Klausberger (ウィーン医大、オーストリア)

Michael J Higley (Yale大学、米国)

Lucy Palmer (Bern大学、スイス)

Soohyum Lee (NYU、米国)

Mark Harnett (ジェネリアファーム、米国)

大木 研一 (九州大学)

金子 武嗣 (京都大学)

林 朗子 (東京大学)

窪田 芳之 (生理学研究所) 他

神経科学研究の中で大脳皮質の局所神経回路の解析は、現在最も注目を浴びている重要な研究分野の一つです。この分野は、ここ数年、様々な技法を取り入れながら目覚ましく研究が進んでいます。これらの多様な研究を組み合わせ検討する事が、大脳皮質の局所神経回路の機能構築を理解する上で必須であると考えられています。本国際会議では、世界的にトップレベルの研究者十数名に、ホットな研究成果を紹介していただきます。さらに、参加者にポスター発表の機会を提供します。

お問合せ先：生理学研究所 大脳神経回路論研究部門 北啓子 Tel: 0564-59-5280

コンファレンスURL: <http://www.nips.ac.jp/~cortex/6th/>

21. 「Job Matching」

Job Matchingとは、現在求人中の方と、求職中の方が互いに大会への参加の機会を利用して、面接や情報交換を行える場です。Neuro2013では無償でJob Matchingの機会を提供する取り組みを行います。

日 時：6月20日(木)～22日(土) 10:00～17:00

会 場：国立京都国際会館 2F Room I 「Job Matchingコーナー」

Job Matchingへの求人情報掲載をご希望される方へ

本大会(京都)ではJob Matchingのためのスペースをご用意しております。

求人側と求職側の面談の場として活用していただければ幸いです。衝立で仕切ったスペースを3区画設けております。ご利用を希望される方は、日本神経科学学会事務局デスク(正面玄関ロビー)までお問い合わせください。

座長へのご案内

- 座長の方は、セッション開始15分前までに各会場へお越しのうえ、ステージ右手前方の次座長席[Next chairperson's seat]にお掛けください。
- 発表時間、質疑応答時間を厳守し、円滑な運営にご協力をお願いいたします。

発表者へのご案内

■発表言語

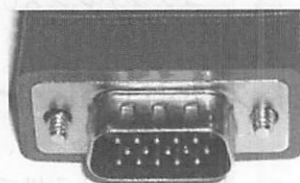
- プレナリーレクチャー：英語
- シンポジウム(英語)
- 一般口演：英語(大会の国際化のため、例外を除き英語での発表をお願いします)
※シンポジウム、一般口演とも、討論は原則英語ですが場合によっては日本語でも結構です。
日本語の場合、座長がフォローして下さいますようお願いいたします。
- 教育講演：日本語(一部を除いて)
【日本語で行われるシンポジウム】
 - ・S2-5-1 「間隔と運動は切り離せない-局所回路からBMIまで」(一部日本語)
 - ・S1-3-2 日本神経化学学会 理事会企画シンポジウム(日本語)
 - ・S2-5-3 基礎臨床統合シンポジウム(日本神経科学学会将来計画委員会・臨床連携ワーキンググループ合同企画)(日本語)
- 臨床医のための最新脳科学教育コース：日本語

■発表時間

- シンポジウムは座長の指示に従ってください。
- 一般口演は発表10分、討論5分です。

■発表方法

- 本大会の発表は、PCプレゼンテーションに限らせて頂きます。各自ノートパソコンをご用意ください。
- Windows 7、Windows Vista、Windows XPまたはMac OS X以上が動作し、外部モニター出力端子を備えたPCを使用してください。PowerPoint2003以降のバージョンをご利用ください。
- SONYのVAIO、Mac等、モニター出力端子の形状が特殊な機種をご使用の場合は、D-sub15ピン用変換アダプターを持参してください。
SONY VAIO Note C1/SR/GT/U等の一部機種や、Apple PB G4、Mac Book Pro等の機種はモニター出力の変換コネクタが必要になります。
- バッテリー切れに備え、必ず発表会場にACアダプターをご持参ください。
- 発表中にスクリーンセ이버が起動したり省電力モードにならないように設定してください。
- プレゼンテーションデータに静止画・動画・グラフ等のデータをリンクさせている場合は、そのデータも必ず保存していただき、事前に動作確認を行ってください。
- 発表に際し、音声の利用はできません。必要な場合は事前に事務局へご連絡ください。



D-sub15 ピンコネクタ

■発表の流れ

- 発表の60分前までにご自身の発表する会場施設のPCセンター(国立京都国際会館 1F Room H)にて動作・出力チェックをしてください。
- 発表の30分前までに、PCオペレーターデスク(発表会場内、前方向かって左端)へ、ご自身のノートパソコンを提出ください。
- 発表時の操作は、演壇上のモニターとリモートマウスを用いて、発表者ご自身で行ってください。
- 壇上には計時回線をご用意いたしますので、時間内に完結できるようご協力ください。
※発表時は緑ランプ、終了1分前は橙色ランプ、終了時には赤色ランプが点滅します。
- 発表終了後、ご自身のPCをPCオペレーターデスクよりお引き取りください。

ポスター発表者へのご案内

ポスター会場：イベントホール

【ポスター作成方法】

- 掲示・発表を含め、約半日です。例年と異なり、午前・午後貼り替えとなっておりますのでご注意ください。
- ポスターは、貼付パネルのスペース内におさまるように作成してください。貼付パネルのサイズは、右図を参照してください。
縦：170センチ
横：150センチ
※隣接するパネルとの間に30センチの余白がございますが、発表者が立つスペースです。
ポスターの貼付はできません。
- 演題名、所属、発表者名は、英語・日本語併記でご準備いただき、ポスター貼付スペースの上端部に貼付してください。
- ポスターの発表内容(図・説明)は、すべて英語で作成してください。



【発表方法】

- ポスター演題番号は、「セッション番号」と「ポスター番号」から成り立っています。
例) P1-2-154 (1日目 - 午前1 / 午後2 - ポスター番号)

セッション番号	発表日	貼付時間	閲覧時間	説明・討論	撤去時間
P1-1	6月20日(木)	8:45～ 9:00	8:45～10:45, 11:45～12:35	10:45～11:45	12:35～12:50
P1-2		13:45～14:00	14:00～16:00, 17:00～18:00	16:00～17:00	19:00～19:15
P2-1	6月21日(金)	8:45～ 9:00	8:45～10:45, 11:45～12:35	10:45～11:45	12:35～12:50
P2-2		13:45～14:00	14:00～16:00, 17:00～18:00	16:00～17:00	19:00～19:15
P3-1	6月22日(土)	8:45～ 9:00	8:45～10:45, 11:45～12:35	10:45～11:45	12:35～12:50
P3-2		13:45～14:00	14:00～16:00, 17:00～18:00	16:00～17:00	19:00～19:15

- ポスターは、ご自身の「ポスター番号の位置に、貼付時間内にご自身で貼り付けてください。「ポスター番号」は演題番号の末尾の番号で、あらかじめパネルに表示してあります。「セッション番号」と「ポスター貼付け番号」をよくご確認のうえ、お間違いのないようご注意ください。
- 貼付に必要な画鋏は予めパネルに設置いたします。糊・セロテープは使用できません。
- リボン下記の説明・討論の際には胸につけ、各ポスターパネルの前で参加者の質疑に応じてください(座長による進行はございません)。
- ポスターは、半日毎に貼り替えとなります。ご本人によるポスター撤去にご協力いただきますようお願いいたします。なお、午後の貼り付け時間になっても午前の部のポスターが残されている場合は、お手数ですがはがして床の上に置いていただき、ご自身のポスターを貼ってください。ポスター撤去時間内に撤去することが難しい場合は、討論時間終了後に撤去していただいても結構です。ポスターの紛失、盗難に関しては主催者、事務局側では責任を負えませんのでご了承願います。

Request Concerning Use of Color in Presentation Materials

Around 5% of Japanese men (3 million people) and 8% of Caucasian men have a specific type of vision that makes it difficult to distinguish between colors in a particular range, including red and green. In light of this, you are requested to take the following points into account when preparing presentation materials.

1. Images of two-color staining or DNA chips should be displayed in green and magenta, not red and green.
 2. Three or more stains should not be displayed only as composites with all three colors, but also with the two most important colors alone shown in green and magenta. (Alternatively, images of each channel can be displayed separately.)
 3. In graphs and explanatory figures, it is extremely difficult to match colors shown in two separate places. For this reason, do not use only color-coded descriptions or legends for different items, but write them directly into figures. Do not differentiate between items by using different colors, but rather with different types of line, shapes/symbol, or types of hatching.
 4. On a dark background, use white, yellow, or orange lettering as far as possible.
- For further information, see <http://www.nig.ac.jp/color/>.

発表資料の配色についてのお願い

日本人男性の5%（約300万人）、白人男性の約8%は、赤や緑の混じった特定の範囲の色について、差を感じにくいという視覚特性を持っています。発表資料作成の際は以下の点にご配慮いただきますよう、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

1. 2重染色やDNA チップの画像は、緑と赤だけではなく緑と赤紫(マゼンタ)で表示する。
2. 3重以上の染色は、全色の重ね合わせだけでなく重要な2色だけの組み合わせも緑と赤紫で表示する（あるいは各チャンネルの図を別々に表示する。）
3. グラフや解説図では、離れた2ヵ所の色を照合するのが非常に難しいので、色分けされた各項目の内容や凡例で示すのみではなく、それぞれのグラフ・図に内容・凡例を書き込むこと。また各項目は、色だけでなく線種やシンボルの形、網掛け(ハッチング)などでも区別する。
4. 暗い背景の場合、赤文字や細い青文字は使わずなるべく白や黄色、オレンジ等を使う。
詳しくは<http://www.nig.ac.jp/color/> をご覧ください。

特別企画のご案内

本大会では、通常のプログラムの他に、様々な海外の学会、機関と連携した特別プログラム(シンポジウム)を企画しております。是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

1. 日本神経回路学会特別企画

文部科学省 文化功労者顕彰記念講演

理化学研究所 甘利 俊一

"Dreaming of Mathematical Neuroscience for Half a Century"

日 時：6月21日(金)11:45～12:35

会 場：第3会場/ アネックス2

●会場前で軽食を販売いたします

日本神経回路学会の設立にも深く関わられた甘利俊一先生が、昨年、数理工学における功績により文化功労者として顕彰されました。このたび本顕彰を記念し、甘利先生が主導してこられた数理神経科学の研究についてご講演いただきます。なお、本講演は英語で行われます。

2. 日加合同シンポジウム

日 時：6月22日(土) 17:00～19:00

会 場：第2会場 / アネックス1

テ ー マ：脳画像技術の進歩と精神機能およびその障害の研究への応用

カナダCIHR (Canadian Institutes of Health Research) のInstitute of Neurosciences, Mental Health and Addictionと日本神経科学学会の共催により行われるもので、今回で5回目となります。今回は、近年進歩のめざましい脳画像技術とその応用を日本・カナダ両国の研究者により発表していただきます。この領域の最新の情報交換を行うと共に、両社の協力関係の発展を目指します。

3. 基礎臨床統合シンポジウム (S2-5-3)

(日本神経科学学会将来計画委員会・臨床連携ワーキンググループ合同企画) (日本語)

日 時：6月21日(金) 17:00～19:00

会 場：第5会場/ Room E

テ ー マ：「基礎・臨床連携の推進に向けて：現状の課題と今後の展望」

基礎臨床の統合を目指す本企画は、過去4年にわたって行われ、これまでにアルツハイマー病、統合失調症、自閉症、BMIが取り上げられてきました。近年、多くのシンポジウムが基礎・臨床を統合したものとなっている状況に鑑み、今回は日本で基礎臨床統合を推進するための環境作りを含め、より俯瞰した視点から、日本語で議論することになりました。

4. 日本神経化学学会 奨励賞受賞者企画シンポジウム (S2-2-3)

日 時：6月21日(金) 17:00～19:00

会 場：第2会場 / アネックス1

テ ー マ：繊毛と神経機能

本シンポジウムは、神経化学学会の最優秀奨励賞受賞者に企画していただく恒例のシンポジウムです。今回は、昨年最優秀奨励賞を受賞した熊本奈都子(くまもと なつこ)氏の企画によるシンポジウムです。

5. ISN/JSN 共催シンポジウム (S2-1-1)

日 時：6月21日(金) 8:45～10:45

会 場：第1会場/メインホール

テ ー マ：シナプス再編におけるグリア細胞の役割

国際神経化学会 (ISN) のサポートによるISNと日本神経化学会 (JSN) の共催シンポジウムです。来日するISNカウンスル代表の挨拶と国内外の最先端グリア研究者によるシンポジウムです。

6. 神経化学教育口演セッション

日 時：6月22日(土) 14:00～19:00

場 所：第8会場/会議室 C1

この口演セッションは、大学院生や若い研究者に口演発表の機会を与えシニア研究者との深い討論により、スキルを高めることを目的に日本神経化学会が毎年企画しているものです。

7. WFSBP-Neuro2013 共催シンポジウム

日 時：6月23日(日) 1) 9:00～11:20, 2) 12:20～14:20

会 場：第2会場/アネックス1

テ ー マ：1) Molecular Neurobiology of Schizophrenia

2) Neurocircuit for physiological and pathophysiological brain

●Neuro2013またはWFSBPの参加証をお持ちの方はご入場いただけます

●会場前で軽食を販売いたします

近年研究の進展のめざましい、最新の精神疾患の脳科学研究を取り上げます。WFSBPとの連携により、多くのこの領域のトップ研究者にご講演いただけることになりました。

8. 臨床医のための最新脳科学教育コース (日本語)

日 時：6月23日(日)

1) 9:00～10:00, 2) 10:10～11:10, 3) 11:20～12:20, 4) 13:00～14:00

会 場：第3会場/アネックス2

テ ー マ：1) 発生再生神経科学

2) 分子細胞神経生理学

3) システム神経科学

4) 計算精神医学とBMI技術に基づく精神疾患バイオマーカー

●Neuro2013またはWFSBPの参加証をお持ちの方はご入場いただけます

●会場前で軽食を販売いたします

近年の脳科学の爆発的な進歩により、日常診療で多忙な臨床医が脳科学全体を把握することはますます難しくなりつつあります。本企画は、脳科学の各領域を代表する研究者に、各領域の基礎知識と最新の進歩を、凝縮して臨床医にわかりやすくご講演いただくものです。もちろん、臨床医以外の方のご参加も歓迎します。

9. 男女共同参画推進委員会企画「キャリア形成を考える：情報交換座談会」

日 時：6月22日（土） 11:45～12:45

会 場：510 (5F)

テ ー マ：適切なメンタリングと情報交換は、科学者としての成功するための秘訣です。

Neuro2013では、様々な経験をもつ男女研究者を囲んで、弁当をとりながらのカジュアルな座談会を企画しています。トピックごとに、机を囲んで気軽に相談や意見交換できる機会を提供し、将来のステップアップにつなげていただければと考えています。もちろん男女問わず参加可能です。予定しているトピックは「ワークライフバランス」「研究費獲得のために」「留学」「独立ポジションを得るために」「研究者夫婦の就職」「任期つき雇用の問題」「日本で働く外国人研究者として」などです。どうぞ気軽にお立ち寄りください。外国人参加者のいるテーブルでは必要があれば英語を使用します。

事前予約が必要です。参加者には、実費（1,000円）でお弁当を配布いたします。参加予定の方は下記までお申し込みください。

定 員：先着40名

申込締切：6月10日（月）

事前登録：必要事項（氏名・所属メールアドレス・電話番号・希望するトピック[新しく設定していただいても構います]・特に面談を希望する参加予定メンターがいる場合にはその名前・お弁当手配の要・不要）をご記入の上、運営事務局までメールでお申し込みください。

※お弁当代は当日会場前でお弁当と引換にお支払いください。neuro2013@congre.co.jp

教育講演

ランチョンセミナーと同時時間帯にて開催する教育講演1～教育講演10は、軽食をとりながらの聴講が可能です。EL-1 Ihan Chou (Nature Senior Editor) を除く教育講演は全て日本語で行われます。ただし、軽食は有料販売となりますので、購入希望者は各会場前にて購入してください。

6月20日(木)

EL-1. Communicating science in the digital age (English)

第3会場 アネックス2 11:45～12:35

演者：Ihan Chou (Nature Senior Editor)

座長：大隅 典子(東北大学大学院医学系研究科)

EL-2. 精神疾患のMRI構造画像研究：意義とvoxel-based morphometry入門

第5会場 ルームE 11:45～12:35

演者：根本 清貴(筑波大学)

笠井 清澄(東京大学)

座長：根本 清貴(筑波大学)

EL-3. 2光子励起顕微鏡によるシナプス再編の生体内観察

第6会場 ルームB-1 11:45～12:35

演者：鍋倉 淳一(自然科学研究機構 生理学研究所)

座長：井上 和秀(九州大学大学院薬学研究院)

EL-4. 神経細胞集団の発火時系列解析

第8会場 ルームC-1 11:45～12:35

演者：深井 朋樹(理化学研究所脳科学総合研究センター)

座長：島崎 秀昭(理化学研究所脳科学総合研究センター)

6月21日(金)

EL-5. 神経回路機能の遺伝子操作と制御に向けたウイルスベクター技術

第5会場 ルームE 11:45～12:35

演者：小林 和人(福島県立大学 附属生体情報伝達研究)

座長：糸原 重美(理化学研究所脳科学総合研究センター)

EL-6. グリアの機能形態学

第6会場 ルームB-1 11:45～12:35

演者：木山 博資(名古屋大学大学院医学系研究科)

座長：高坂 新一(国立精神・神経医療研究センター)

EL-7. ヒト精神疾患のモデルと思われる遺伝子改変マウスからヒト遺伝学的解析に発展させる場合に考えること

第7会場 ルームB-2 11:45～12:35

演者：吉川 武男(理化学研究所脳科学総合研究センター)

座長：古市 貞一(東京理科大学理工学部)

6月22日(土)

EL-8. Optogeneticsの原理と実際

第2会場 アネックス1 11:45～12:35

演者：山中 章弘(名古屋大学)

座長：林 康紀(理化学研究所脳科学総合研究センター)

EL-9. 精神疾患の双方向性トランスレーショナル研究

～Bridging the gap between bench and bedside～

第3会場 アネックス2 11:45～12:35

演者：尾崎 紀夫(名古屋大学大学院医学系研究科)

座長：工藤 喬(大阪大学保健センター)

EL-10. 数理モデルと機械学習がひらく神経科学の可能性

第4会場 ルームD 11:45～12:35

演者：銅谷 賢治(沖縄科学技術大学院大学)

座長：鯨島 和行(玉川大学脳科学研究所)

Japan Society for Neurochemistry Distinguished Young Investigator Award 日本神経化学学会

最優秀奨励賞

■ 村松 里衣子

大阪大学大学院医学系研究科分子神経科学

テーマ : 新生血管による神経回路修復機構の解明

奨励賞

■ 飯島 崇利

バーゼル大学バイオセンター神経生物学部門

テーマ : 神経細胞の分化・機能を司るRNA制御機構

■ 齋藤 敦

広島大学大学院医歯薬保健学研究院 分子細胞情報学

テーマ : 小胞体ストレス応答による中枢神経系細胞の分化制御メカニズム

■ 田村 英紀

奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科 細胞機能科学研究室

テーマ : ニューロプシンによるNeuregulin-1 限定分解による制御性伝達の制御機構

■ 牧之段 学

奈良県立医科大学 精神科

テーマ : 幼若期社会的経験依存性のオリゴデンドロサイト成熟及びミエリネーション

(敬称略)

Acknowledgements 謝 辞

本大会と市民公開講座を開催するにあたり、下記の企業および団体から多大なご援助をいただきました。
(五十音順)

◆助成

公益信託加藤記念難病助成基金 公益財団法人細胞科学研究財団 公益財団法人東京生化学研究会
公益財団法人内藤記念科学振興財団

◆補助金

文部科学省科学研究費補助金(研究成果公開促進費)

◆寄付

株式会社池田理化 エフピー株式会社 協和発酵キリン株式会社
サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社 株式会社メニコン レノバサイエンス株式会社

◆ランチョンセミナー／ランチタイムミニシンポジウム

株式会社ATR-Promotions 株式会社NTTデータ経営研究所 アジレント・テクノロジー株式会社
大塚製薬株式会社 オリンパス株式会社 カールツァイスマイクロスコープ株式会社
サントリーウエルネス株式会社 株式会社島津製作所 大日本住友製薬株式会社
株式会社成茂科学器械研究所 日米科学技術協力事業「脳研究」分野 事務局 日本イーライリリー株式会社
ノバルティス ファーマ株式会社 株式会社ミュキ技研

◆機器展示

Bitplane COMPUMEDICS iPSアカデミアジャパン株式会社
株式会社JVCケンウッド RWD Life Science Co., Ltd 株式会社S
アスカカンパニー株式会社 アブカム株式会社 株式会社アルゴ
イルミナ株式会社 株式会社インターメディカル エア・ブラウン株式会社
株式会社エイコム 有限会社エー・ディー・インスツルメンツ・ジャパン 株式会社エル・エム・エス
王子計測機器株式会社 小原医科産業株式会社 オメガウェーブ株式会社
オリンパス株式会社 株式会社オンチップ・バイオテクノロジーズ カールツァイスマイクロスコープ株式会社
株式会社クレアクト・インターナショナル 株式会社クレッセント 株式会社高研
三栄バイタルズ株式会社 シーケノム株式会社 株式会社資生堂
株式会社島津製作所 ショーシンEM株式会社 ソーラボジャパン株式会社
株式会社知能情報システム 東京化成工業株式会社 堂阪イーエム株式会社
トミーデジタルバイオロジー株式会社 ナモト貿易株式会社 株式会社成茂科学器械研究所
株式会社ニコンインステック 株式会社ニューロサイエンス ネットパジーン株式会社
ノベルサイエンス株式会社 バイオリサーチセンター株式会社 浜松ホトニクス株式会社
株式会社フジオテック プライムテック株式会社 株式会社ブレインサイエンス・イデア
株式会社ベックス マイクロブライトフィールドジャパン株式会社 株式会社ミュキ技研
ミルテニーバイオテック株式会社 室町機械株式会社 メルク株式会社
有限会社メルクエスト 株式会社モンデシステム 株式会社ユニークメディカル
横河電機株式会社 ライフテクノロジーズジャパン株式会社 株式会社ライブラリー
株式会社ルシール

◆アカデミア展示

INCF日本ノード(理研BSI)

ナショナル バイオリソース プロジェクト「ニホンザル」

◆書籍展示

AAAS/Science

株式会社紀伊國屋書店

株式会社デジタルデータマネジメント

エルゼビア・ジャパン株式会社

シュプリンガー・ジャパン株式会社

ワイリー・パブリッシング・ジャパン株式会社

オックスフォード大学出版局株式会社

株式会社神陵文庫

◆広告

SAS Institute Japan 株式会社

株式会社医学書院

大塚製薬株式会社

株式会社キーエンス

第一三共株式会社

武田薬品工業株式会社

株式会社ツムラ

バイオリサーチセンター株式会社

フナコシ株式会社

アステラス製薬株式会社

株式会社イナ・オプティカ

株式会社大塚製薬工場

サンド株式会社

大正富山医薬品株式会社

田辺三菱製薬株式会社

株式会社成茂科学器械研究所

ファーマバイオ株式会社[※]

Meiji Seika ファルマ株式会社

アストラゼネカ株式会社

有限会社エー・ディー・インストルメンツ・ジャパン

小原医科産業株式会社

住友ベークライト株式会社

大日本住友製薬株式会社

中外製薬株式会社

日本イーライリリー株式会社

株式会社フィジオテック

ヤンセンファーマ株式会社

[※]演題募集要項への出稿

◆ストラップ広告

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

(2013年5月8日現在)

学会からのお知らせ

1. 2013 年度理事会役員

理事長	木山 博資 (名古屋大学)
副理事長	白尾 智明 (群馬大学)
庶務担当理事	仲嶋 一範 (慶應義塾大学)
会計担当理事	今泉 和則 (広島大学)
出版・広報担当理事	佐藤 真 (福井大学)
理 事	池中 一裕 (自然科学機構)
	石崎 泰樹 (群馬大学)
	岡野 栄之 (慶應義塾大学)
	塩坂 貞夫 (奈良先端科学技術大学院大学)
	道川 誠 (名古屋市立大学)
	橋本 均 (大阪大学)
	米田 幸雄 (金沢大学)
	神庭 重信 (九州大学)
	小泉 修一 (山梨大学)
	等 誠司 (滋賀医科大学)

監 事

※2013 年総会まで	鍋島 俊隆 (名城大学)
	野村 靖幸 (久留米大学)

将来計画委員会委員長

小泉 修一 (山梨大学)

出版・広報委員会委員長

佐藤 真 (福井大学)

シンポジウム企画委員会委員長

斎藤祐見子 (広島大学)

国際対応委員会委員長

白尾 智明 (群馬大学)

研究助成金等候補者選考委員会委員長

石崎 泰樹 (群馬大学)

脳研究推進委員会委員長

岡野 栄之 (慶應義塾大学)

奨励賞選考委員会委員長 ※2013 年総会まで

馬場 広子 (東京薬科大学)

連合大会委員会委員長

和田 圭司 (国立精神・神経医療研究センター神経研究所)

ダイバーシティ推進委員会委員長

馬場 広子 (東京薬科大学)

利益相反委員会委員長 ※2013 年新設

神庭 重信 (九州大学)

2. 評議員会

日 時：6 月 21 日 (金) 14:00~14:30

会 場：国立京都国際会館 2階第6会場（Room B1）

議 題：今後、他学会との連携をどのように進めていくか。

- 1) 連合・連携大会の開催について
- 2) 若手育成に関する他学会との連携
- 3) 神経化学会大会における他学会との連携シンポジウムの開催
- 4) 国際学会（たとえば ISN や APSN）との連携について
- 5) その他

3. 総会

日 時：6月21日（金）14：30～15：20

会 場：国立京都国際会館 2階第6会場（Room B1）

議 題： 1. 理事長報告

2. 選挙結果報告

3. 庶務報告

4. 会計報告

5. 出版・広報報告

6. プログラム編成報告

7. 各種委員会報告

①将来計画委員会

②国際対応委員会

③出版・広報委員会

④研究助成金等候補者選考委員会

⑤シンポジウム企画委員会

⑥脳研究推進委員会

⑦連合大会委員会

⑧ダイバーシティ推進委員会

⑨利益相反委員会（新設）

8. 2013年度奨励賞選考結果報告

9. 優秀賞新設に伴う各賞規定・内規の改訂の件

10. 2012年度決算の件

11. 同監査報告

12. 2014年度予算の件

13. 監事選任の件

14. 評議員選任の件

15. 名誉会員推薦の件

16. 功労会員推薦の件

17. 細則改訂の件

18. 次期大会の件

19. その他

4. 理事会企画シンポジウム

日 時：6月20日（木）14：00～16：00

会 場：国立京都国際会館 1階第3会場（Annex 2）

座 長：橋本亮太（大阪大学大学院医学系研究科/連合小児発達学研究所）

タイトル：統合失調症の分子病態と治療：原因解明と治療法開発の戦略とは

シンポジスト：橋本亮太（大阪大学）、中沢敬信（東京大学）、橋本 均（大阪大学）、
那波宏之（新潟大学）

5. ISN/JSN 共催シンポジウム

日 時：6月21日（金）8：45～10：45

会 場：国立京都国際会館 1階第1会場（メインホール）

座 長：小泉修一（山梨大学医学部薬理学）

鍋倉淳一（自然科学研究機構生理科学研究所）

Monica J. Carson（Center for Glial-Neuronal Interactions, School of Medicine, University of California, Riverside）

タイトル：シナプス再編におけるグリア細胞の役割

シンポジスト：鍋倉淳一（自然科学研究機構生理科学研究所）

Justin Lee（Korean Institute of Sciences）

中西 博（九州大学歯学部薬理学）

小泉修一（山梨大学医学部薬理学）

Monica J. Carson（Center for Glial-Neuronal Interactions, School of Medicine, University of California, Riverside）

6. 最優秀奨励賞受賞者講演

日 時：6月21日（金）15：20～16：00

会 場：国立京都国際会館 2階第6会場（Room B1）

座 長：馬場広子（奨励賞選考委員会委員長/東京薬科大学薬学部機能形態学教室）

7. 奨励賞受賞者企画シンポジウム

日 時：6月21日（金）17：00～19：00

会 場：国立京都国際会館 1階第2会場（Annex 1）

座 長：熊本奈都子（名古屋市立大学大学院医学研究科機能組織学）

タイトル：絨毛と神経機能

8. 教育口演セッション

日 時：6月22日（土）14：00～16：00、17：00～19：00

会 場：国立京都国際会館 1階第8会場（Room C1）

9. 第6回（2013年）神経化学若手研究者育成セミナー

日本神経化学会では、明日の神経化学を支える人材の養成を目指し、神経化学の若手研究者育成セミナーを大会に併せて開催しております。これまでのセミナーでは、第一線で研究に携わる講師陣が、最新の研究内容や実験手法、さらには研究者としての心構えなどについて熱心に講義し参加者と討論されてきました。神経化学会は深く討論することを重視する伝統がありますが、本セミナーでもこの伝統が受け継がれています。

第6回目となる今年のセミナーは、以下のように計画しており、約50名の参加申し込みがあり、11名の講師、5名のチューターの先生方にご協力いただきながら、講義・討論・フリーディスカッションを通して、神経化学の楽しさを感じてもらえるような会にしたいと考えています。

なお本セミナーには、企業からのご寄附や広告協賛によるご支援をいただいておりますことを会員の皆様にお知らせし、厚く御礼申し上げます。

日 程：2013 年 6 月 20 日（木）～22 日（土）

会 場：国立京都国際会館 および 大原山荘

国立京都国際会館

京都市左京区宝ヶ池 TEL：075-705-1234

大原山荘

京都市左京区大原草生町 17 TEL：075-744-2227

講師・講義タイトル（予定）：

グループ	講 師	講義タイトル	チューター
A	佐藤 真 (福井大学医学部 / 子どものこころの発達研究センター)	形態学的アプローチと発達神経化学の流れと将来	笠井 淳司 (大阪大・未来戦略機構)
	石川 保 (奈良先端科学技術大学院大学 神経機能科学)	初めての神経生理学	
B	I. 田中 謙二 (慶應大学医学部 精神・神経科学)	精神科トランスレーショナルリサーチ I. オプトジェネティクスと神経活動操作	堤 弘次 (北里大・理・生体機能学)
	II. 久保 健一郎 (慶應大学医学部 解剖学)	II. 発達の障害と神経発生学	
C	I. 村松 里衣子 (大阪大学大学院医学系研究科 分子神経科学)	【ダイバーシティ推進委員会企画】 分子の発見から創薬へ I. 中枢神経回路の修復機構	黒田 啓介 (名古屋大・医)
	II. 古谷 真優美 (アスピオファーマ株式会社 薬理第一ファカルティ)	II. 製薬企業における創薬研究：急性心不全治療薬ハンブ	
D	味岡 逸樹 (東京医科歯科大学 脳統合機能研究センター)	医学部出身ではない研究者が挑む神経系疾患研究	山岸 覚 (浜松医大・解剖・神経機能学)
	榎戸 靖 (愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所病理学部 運動障害病理研究室)		
	株田 智弘 (国立精神・神経医療研究センター神経研究所 疾病研究第四部)		
E	I. 高田 昌彦 (京都大学霊長類研究所 分子生理研究部門 統合脳システム分野)	サルも心の病にかかるか？ I. 精神疾患の霊長類モデル！？	池谷 真澄 (横浜市大・医学群 生体システム医科学系)
	II. 橋本 亮太 (大阪大学大学院医学系研究科/連合小児発達学研究科)	II. 神経化学が読み解く精神疾患の病態メカニズム	

予 定：

6月20日(木)	19:15(頃)	国際会議場内で集合して、順次大原山荘へ移動
	20:00~20:30	全体説明など
	20:30~22:00	夕食・グループディスカッション
	22:00~消灯	フリーディスカッション
6月21日(金)	朝食後	国際会議場に移動後、大会参加(自由行動)
	19:15(頃)~	国際会議場から大原山荘へ移動
	20:00~22:00	夕食・グループディスカッション
	22:00~消灯	フリーディスカッション
6月22日(土)	朝食後	国際会議場に移動後、自由解散

世話人会：

理事長・大会長	木山 博資	名古屋大・院医
世話人	橋本 均	大阪大・院薬/5 大学連合大学院小児発達
〃	石川 保幸	前橋工大・システム生体工
〃	鹿川 哲史	東京医歯大・難治疾患
〃	笠井 淳司	大阪大・未来戦略
〃	株田 智弘	精神・神経センター・疾病四部
〃	小泉 修一	山梨大・医
〃	熊本 奈都子	名市大・院医
〃	黒田 啓介	名古屋大・医
〃	永井 義隆	精神・神経センター・疾病四部
〃	新田 淳美	富山大・院薬
〃	橋本 亮太	大阪大・院医/5 大学連合大学院小児発達

問い合わせ先：

大阪大学大学院薬学研究科神経薬理学分野 橋本 均

TEL：06-6879-8180

E-mail：hasimoto@phs.osaka-u.ac.jp

URL：http://www.neuro2013.org/young/index.html

2013 年度第 1 回理事会議事録

日 時：2013 年 3 月 8 日（金）13：00～17：00

会 場：（財）国際医学情報センター第 2 会議室

出 席：井上和秀（理事長）、池中一裕（副理事長）、木山博資（庶務担当理事）、島田昌一（会計担当理事）、仲嶋一範（出版・広報担当理事）、石崎泰樹、佐藤真、遠山正彌、柳澤勝彦、米田幸雄、和中明生、加藤忠史、馬場広子、和田圭司（以上 理事）、鍋島俊隆、野村靖幸（以上 監事）、小泉修一（将来計画委員会委員長）、渡部和彦（2013 年選挙管理委員会委員長）、白尾智明（国際対応委員長・新任理事）、岡野栄之（脳研究推進委員会委員長・新任理事）、塩坂貞夫（第 57 回大会長・新任理事）、今泉和則、道川誠、橋本均（以上 新任理事）

委任状：高坂新一（連合大会委員会委員長）、熊倉鴻之助（理事）

議 題

【報告事項】

1. 2012 年度第 2 回理事会議事録承認について

井上和秀理事長より、先般持ち回り審査を行い、承認が得られている旨報告された。

2. 選挙結果報告

◆理事改選結果について

2013 年 2 月 6 日に開票された理事選挙結果について、渡部和彦選挙管理委員会委員長より報告された。

◆科研費審査委員候補者選出選挙の件

2013 年 2 月 6 日に開票された科研費審査委員候補者選出選挙結果について、渡部和彦選挙管理委員会委員長より報告された。

3. 役職理事・補充理事・各種委員会委員長の選出

◆理事長・副理事長について

2013～2014 年度理事（補充理事除く）11 名による投票及び審議の結果、理事長に木山博資理事、副理事長に白尾智明理事が選出された。

◆役職理事について

審議の結果、各担当理事を以下の通り選出した。

庶務担当：仲嶋一範理事

会計担当：今泉和則理事

出版・広報担当：佐藤真理事

◆補充理事選任について

得票数、専門分野および地域性等を考慮し、審議の結果、下記の通り補充理事候補者を選出した。
（50 音順）

神庭重信氏

小泉修一氏

等 誠司氏

◆各種委員会委員長について

各種委員会委員長の選出については、新理事長に一任した。

4. 次期監事候補者の選出

審議の結果、次期監事候補者（任期は2013年度総会終了時～2017年度総会終了時）を以下の通り選出した。

御子柴克彦氏

熊倉鴻之助氏

5. 理事長報告

井上和秀理事長より理事長就任中の総括及び謝辞が述べられた。

6. 庶務報告

木山博資庶務担当理事より、以下の通り報告された。

◆会員状況について

会員数動向及び異動状況について報告された。また、物故会員2名に対し黙祷が捧げられた。

◆除名について

年会費長期未納者（未納期間：2009年度～）が報告され、2012年12月31日付けで48名に対し、除名処理を行ったことが報告された。

◆評議員の退会について

退会を希望している1名の評議員について、重ねて慰留するも意思が固く、退会処理を止む無く行なった。

◆功労会員について

2名の正会員が功労会員として総会へ推薦された。

7. 会計報告

島田昌一会計担当理事より、会計報告がなされた。

◆年会費未納者数について

年会費未納者数について報告された。年会費未納者には引き続き連絡をお願いしたい。

特に本年度中に未納が解消されない2010年からの長期未納者については、本年度付で除名処理となる為、該当者へ連絡可能な理事会メンバーは本人へ納入喚起を行うこととした。

また、学生会員を正会員に導く方法について意見され、本件については次期理事会への検討事項とした。

◆2012年度税務申告について

税務申告について法人税70,000円、消費税28,600円を申告済みである旨報告された。

また、2014年度は消費税の納税義務者ではなくなった旨報告された。

なお、2012年度決算の監査による監査については2013年4月12日（金）に行う旨報告された。

8. 出版・広報報告

仲嶋一範出版・広報担当理事より、以下の通り報告された。

◆機関誌『神経化学』について

2012年度は51巻1号～3号の年間3号の発行であった。

また、2013年度の52巻1号は3月20日頃発送を予定している。

9. 委員会報告

(1) 将来計画委員会

小泉修一委員長より、以下の通り報告された。

◆2012 年度若手研究者育成セミナーアンケート結果報告

2012 年 9 月に開催された第 6 回若手研究者育成セミナーのアンケート結果より、本セミナーの狙いである若手同士の繋がりや異分野との交流が達成されたことが伺えた。

また、第 6 回より新たに取り入れたチューター制度及びアドバイス委員会がうまく機能しているようであった。チューター（過去セミナー受講者）は受講者と講師の橋渡しを行い、また、大会長により指名されたアドバイス委員会が過去のノウハウやポイントをおさえ運営に上手く活かすことができたとし、本制度は今後も継続すべきであるとした。

なお、第 7 回（2013 年度）セミナーについては既にアドバイス委員会を発足して活動を行っている。

また、第 6 回セミナーに参加のために入会した会員は 46 名であり、これは 2012 年全新規入会者 102 名の約半数を占めているため、本セミナーは会員獲得に繋がっていることがわかった。

◆日本学術会議若手研究者ネットワークについて

日本学術会議若手アカデミー委員会「若手研究者ネットワーク」へ、当学会若手研究者育成セミナーとしても参加を表明した。今後は、当学会の意見発信、さらに若手の意見収集の場として、本ネットワークを活用して行く予定である。

◆トラベルアワードについて（若手海外派遣プロジェクト）

国際対応委員会からの教育的支援により ISN-ESN アテネ大会のトラベルグラントを獲得した若手会員の当学会大会参加状況を調査したところ、積極的に参加・発表していることが明らかとなった。若手が海外の学会で発表する際には、今後とも当学会としての経済的・教育的な積極的支援が重要である。

また、2013 年 4 月に開催される ISN-ESN カンクン大会への経済的支援を行った若手 2 名について今後も追跡調査をする必要があるとした。

(2) 出版・広報委員会

仲嶋一範委員長より、以下の通り報告された。

◆学会 HP について

月 2 回定期的に更新を行っている。神経化学トピックスは 4 編掲載した。

◆学会 HP「若手研究者育成セミナー頁」新設について

橋本均委員を中心にご尽力いただき、新たに「若手研究者育成セミナー頁」を作成した。本頁にはセミナー参加レポートを掲載しており、本セミナーの楽しさが伝わりやすくなっている。

◆会員検索システムについて

公開・非公開の設定の問題は解決してシステムは一応完成し、現在テスト環境において試験中である。問題がなければ、本番環境へ移行する予定である。

◆『神経化学』について

昨年度に引き続き大会抄録号は作成せず、プログラム号のみを作成することとなった。よって、本年度も 1 号～3 号の年間 3 号の発行になる。

(3) シンポジウム企画委員会

和田圭司委員長より、以下の通りご報告された。

前回理事会で報告したように、2013 年日本神経化学会公開シンポジウムは橋本亮太氏にオーガナイザーを務めていただき鋭意準備が進んでいる。2014 年日本神経化学会公開シンポジウムについては、新体制の委員会開始後、第 57 回大会長の塩坂貞夫大会長とも相談の上企画する予定である。

(4) 国際対応委員会

白尾智明委員長より、以下の通り報告された。

◆ISN 理事選、トレジャー選について

当会の存在を示すことのできる方を立候補とした。

その結果、久永真市氏が理事に、池中一裕副理事長がトレジャーに選出された。

◆ISN-ESN カンクン大会トラベルアワード申請支援について

ISN-ESN カンクン大会のトラベルアワード申請支援には、6名の若手会員からの応募があった。

そのうち4名がトラベルアワードを獲得した。また、残り2名については、アブストラクトの内容が高かったことから、当学会より参加費と旅費の半額を支援することとなった。

◆トラベルアワードサポートの対象国際大会について

若手のトラベルアワードサポートの対象国際大会はこれまでの経験を踏まえ、当学会と関係の深い ISN・APSN をメインターゲットとする。しかし、他の国際大会についてもトラベルグラントへの応募を必須としその内容・規模を考慮し、支援を行うことを提案され、承認された。

今後は委員会としてのサポート運用について具体的に検討する。

(5) 研究助成金等候補者選考委員会

石崎泰樹委員長より、以下の通り報告された。

◆2012 年 10 月～2013 年 3 月における学会推薦公募案件について

公募案件は 5 件あった。そのうち女性科学者に明るい未来をの会 2013 年度猿橋賞については 2 件の応募があり、審議の上、2 件とも推薦することとなった。また、財団法人山田科学振興財団については 8 件の応募があり、審議の上、2 件推薦することとなった。なお、学会より推薦した候補者については、事前に理事へメールにて報告している。

◆2013 年 4 月以降の学会推薦公募案件について

公募案件は 1 件ある。

(6) 脳研究推進委員会

岡野栄之委員長より、以下の通り報告された。

科学技術振興機構 (JST) の CRDS (戦略的に JST の研究課題を決定する委員会) に井上和秀理事長と岡野栄之委員長が参加され、当学会としての意見を申し入れた。

次期委員会への引継ぎ事項としては、JST の CRDS 及び文部科学省・脳科学研究戦略推進プログラムより意見を求められた際に、引き続き、当学会の意見を発信していただきたい。

(7) 奨励賞選考委員会

馬場広子委員長より、以下の通り報告された。

2012 年度は、応募者 8 名より最優秀奨励賞受賞者 1 名、奨励賞受賞者 4 名を選出した。第 55 回大会期間中に最優秀奨励賞受賞講演が受賞者の熊本奈都子氏により行われ、非常に評判が良かった。また、最優秀奨励賞受賞者の熊本奈都子氏については、第 56 回大会にて最優秀奨励賞受賞者企画シンポジウム枠を使用し、シンポジウムを行う予定である。

2013 年度の奨励賞募集については、6 月の大会開催時期を踏まえ、例年より 3 ヶ月程早いスケジュールとなっている。2013 年 3 月 8 日 (金) に募集を締め切り、4 月開催の委員会にて受賞者を決定する。

(8) 連合大会委員会

高坂新一委員長欠席の為、井上和秀理事長より、以下の通り報告された。

委員会からの特段の報告事項はないとの報告を受けているが、当委員会は報告事項議題 10 項と連携している為、後ほど報告する。

(9) 日本神経化学会活性化特別委員会

井上和秀理事長より、活性化特別委員会は会員数を 2,000 名規模にすることを目標とし、井上和秀理事長就任より 2 年間の期間限定で設置された委員会であるため、本理事会をもって委員会は

終了する旨報告された。

また、遠山正彌委員長より、以下の通り意見が述べられた。

将来計画委員会で報告されたように、若手研究者育成セミナーは当学会の会員獲得に繋がっている。同セミナーを通し、当学会の特徴である若手・人材育成に今後も注力した活動を地道に続けていきたい。

(10) ダイバーシティ推進委員会

馬場広子委員長より、以下の通り報告された。

◆男女共同参画学協会連絡会への参加について

2012年秋に男女共同参画学協会連絡会主催大規模アンケートへ本会も参加し、本学会会員へ周知し協力を依頼した。また、同時に同連絡会へ正式加盟し、これまで2回の運営委員会に出席した。今後は、同会へ参加している他学会の活動を参考にし、活動していきたい。

◆若手研究者育成セミナーについて

若手研究者育成セミナーに本委員会委員が講師として参加し、セミナーを通してダイバーシティを啓蒙する。第6回若手研究者育成セミナーの講師は、村松里衣子氏と古谷真優美氏である。

◆Neuro2013について

日本神経科学学会は、以前よりダイバーシティの取り組みを行っているため、Neuro2013ではその活動を是非参考にしたい。

また、Neuro2013では女性の座長を積極的に登用することと、プログラム委員会に参加した。

このような活動をとoshi、学会の中で女性会員が積極的に活躍できる機会が増えると考えます。

井上和秀理事長より、日本解剖学会や日本薬理学会等近隣の学会とも連絡をとりあって委員会活動を進めていきたい旨意見された。

米田幸雄理事より、留学生等の国籍の問題も視野にいていただきたい旨意見された。

10. 脳科学関連学会連合について

井上和秀理事長より、以下の通り報告された。

2012年7月に設立された脳科学関連学会連合は、関連学会19学会が参加し、延べ会員数5万人以上である。

代表に宮下保司氏（日本神経科学学会）、副代表に井上和秀氏（日本神経化学会）と水澤英洋氏（日本神経学会）が選出された。

また、脳科学研究の将来構想について検討する脳科学将来構想委員会が設置され、当学会より小泉修一氏が選出された。

なお、井上和秀理事長が当学会理事長を退任された後も、同学会連合の副代表の責務は継続していただくことで承認された。

11. 生物科学学会連合について

木山博資理事より、以下の通り報告された。

第5回定例会議にて同学会連合の代表の選考が行われ、代表に浅島誠氏が選出された。

また、第6回定例会議では、副代表に長濱嘉孝氏及び福田裕穂氏が選出された。

第6回定例会議では、同会議の議題のひとつである「日本学術会議について」より『国立自然史博物館の設立について』という案件について、同学会連合のコンセンサスを得て日本学術会議に提案したいと検討されている。

12. 男女共同参画学協会連絡会について

当議事録、第9報告議題-(10) ダイバーシティ推進委員会にて報告済みとする。

13. 第55回大会(2012年度)について

池中一裕大会長より、以下の通り報告された。

参加者数は事前参加登録426名、当日参加登録87名、APSN参加者67名の合計580名であった。

大会の会計については次回報告とするが、大会準備期間途中、それまでコンベンション会社に委託していた大会運営を最小限度にカットしたことにより、黒字で会計を閉める運びとなった。

14. 第56回大会(2013年度)について

木山博資大会長より、以下の通り報告された。

◆1月24日時点で演題数は1,928演題集まっており、その後も増えている。

◆大会期間中の当学会に関連する主なスケジュールは下記の通りである。

6月21日(金) 9:00~11:00 ISN/JSN ジョイントシンポジウム

〃 14:00~16:00 評議員会、総会、最優秀奨励賞受賞講演

〃 17:00~19:00 2012年度最優秀奨励賞受賞者企画シンポジウム

6月22日(土) 9:00~11:00 神経化学/日本生物学的精神医学会の共催シンポジウム

〃 14:00~16:00 若手育成オーラルセッション

〃 17:00~19:00 〃

◆2013年度第2回理事会は、6月19日(水) 13:00~17:00を予定している。

◆持ち回りメール審議されたとおり、日本神経科学学会が紙ベースの抄録号作成をとりやめたことにより、経費の関係上、当学会も学会誌抄録号の作成をとりやめ、昨年同様、学会誌の大会プログラム号として作成し、大会前に全会員へ送付予定である。

なお、大会の抄録については大会ホームページより閲覧可能とする。

15. 第57回大会(2014年度)について

塩坂貞夫大会長より、前回議事録の訂正について報告され、了承された。

16. 大学評価・学位授与機構における機関別認証評価委員候補者の推薦について

井上和秀理事長より、独立行政法人大学評価・学位授与機構より、機関別認証評価委員会専門委員候補者の推薦依頼があり、当学会より候補者として白尾智明氏、馬場広子氏を推薦された旨報告された。

17. その他

特になし。

【審議事項】

1. 新評議員の推薦について

木山博資庶務担当理事より報告され、審議の結果、計10名の候補者について総会への推薦が承認された。

なお、評議員を推薦する際の書式が特に無い、という指摘により、事務局にて評議員推薦状の書式を作成することが了承された。

2. 名誉会員の推薦候補者について

井上和秀理事長より、ご年齢、ご経歴や当会への貢献度等を踏まえ、候補者として野村靖幸氏、鍋島俊隆氏が推薦され、審議の結果、総会への推薦が承認された。

3. 細則改訂・追記案（名誉会員）について

木山博資庶務担当理事より以下の通り草案が示され、審議の結果、承認された。

第8条 名誉会員は、次の1項に掲げるもののいずれかの資格を有する場合、2項の手続きを経て総会の議決をもって承認される。

1. 資格

- (1) 永年、会員として本会に多大な貢献をした者で、原則として満65歳以上であること。
- (2) 神経化学領域で学術的に特に顕著な業績をあげた者（外国人を含む）。

2. 手続き

- (1) 理事または監事を経験した者2名以上による推薦書（本学会への貢献度を示すもの）と履歴書、業績目録（10篇以内）を添えて、理事長に提出する。
- (2) 理事長はこれを理事会で審議し、候補者を総会に推薦し、総会にて了承を得る。
- (3) 名誉会員として総会で了承を得られた者に対し推戴式を行い、推戴状を授与し、その功労を讃えるものとする。

4. 奨励賞選考委員会要望書について

馬場広子奨励賞選考委員会委員長より、「日本神経化学会奨励賞候補者対象の見直しと現最優秀奨励賞に相当する別賞の設置」と題した提案がなされた。その骨子は以下の通りである。

現在の「奨励賞」の枠組みでは「30歳代前半で優秀な研究を行っている」若手と、「30歳代後半ですでにある程度独立して優秀な研究を行っている」若手を同じ賞名で表彰することになっているが、「若い候補者は奨励賞の対象で、ある程度研究者としての地位が確立した若手で特に優秀な人は最優秀奨励賞の対象」と委員会で区別しても、応募者にとってこれらの違いは理解しにくく、若い人たちの応募を妨げていると考えられる。

また、選考委員にとっても2つの異なる基準に則って選考する難しさがある。

そこで、平成24年度第2回奨励賞選考委員会で審議した結果、「奨励賞を35歳未満で将来の発展を期待される若手神経化学研究者に与える賞として継続し、神経化学の進歩に寄与する顕著な研究を発表した45歳未満の研究者には新たに優秀賞を設ける」ことを提案する。

なお、日本神経化学会奨励賞選考委員会を「日本神経化学会優秀賞・奨励賞選考委員会」と名称変更し、これまでの奨励賞規定を「日本神経化学会優秀賞・奨励賞規定」と変更することにより、新たな委員会の編成も年齢変更による移行期の特別措置も不要となるとする。

上記提案について審議の結果、2014年度より同提案内容が施行される旨、承認された。

また、上記に伴い、委員会名は日本神経化学会優秀賞・奨励賞選考委員会へ、内規及び規定についても、日本神経化学会優秀賞・奨励賞選考委員会内規及び規定へ改定される旨、承認された。

なお、上記に関し、以下を申し送り事項とすることが了承された。

- 1) 上記提案内容施行の際、原則として、優秀賞受賞者は毎年1名とする。
- 2) 上記提案内容が施行となる2014年度以降、優秀賞受賞者が、それまでの最優秀奨励賞受賞者が受賞年度翌年の日本神経化学会大会においてシンポジウムを企画する権利を、また、それまで原則として奨励賞及び最優秀奨励賞受賞者が、その翌年に評議員へ学会推薦される特典を、併せて引き継ぐ。
なお、最優秀奨励賞受賞者が受賞年度翌年の日本神経化学会大会においてシンポジウムを企画する権利及び奨励賞受賞者が翌年評議員へ学会推薦される特典については2013年度までとし、2014年度以降は継続されない。
- 3) 上記提案内容が施行となる2014年度以降、それまで当会最優秀奨励賞及び奨励賞を受賞した経歴のある会員であっても、優秀賞へ応募することができる。
- 4) 上記提案内容が施行となる2014年度以降も、学位に関係なく、各賞へ応募できる。

5. 利益相反委員会立ち上げと委員候補について

木山博資庶務担当理事より、2012 年度第 2 回理事会にて利益相反委員会設置が承認されたため、その立ち上げ時に同委員会の委員として仲嶋一範次期庶務担当理事を加えることが推薦された。

また、本委員会をリードする委員長には臨床系分野の先生に就任していただき、仲嶋一範次期庶務担当理事がサポートとして加わる委員会構成とするよう提案され、審議の結果、承認された。

6. 2012 年度決算について

島田昌一会計担当理事より、2012 年度決算等について以下の通り報告され、承認された。

◆2012 年度決算より、それまでの、一般会計予算、一般実績、大会実績、を並列した 1 枚の決算書では、「毎年一般会計の予算しか立てていないのにそこへ大会会計実績を並べ比較するのは理解しづらい」との会計士からの指摘により、①一般会計予算と一般会計実績、②全体の実績のみ（大会会計と一般会計の実績及びこれら合計）、以上の 2 枚により作成されることとした。

◆第 55 回大会会計の収支決算が黒字となり、池中一裕大会長に謝意が述べられた。

なお、池中一裕第 55 回大会長より、大会運営時、企画・立案・運営等是对応できるが会計実務処理については不便が多いと感じたため、今後の大会では、学会事務局にて大会会計実務処理を執り行うことも考慮してはどうか、と意見された。

これに対し、井上和秀理事長より、今後大会長となる先生方のご意向に沿ったやり方を選んでいただくとし、但し、その際にはいろいろな運営の仕方を検討していただくことが良い、と意見された。

7. 国際協力について

遠山正彌理事より、日本ベトナム経済フォーラム主催による、ベトナム政府が掲げている「高等教育の量的拡大から質的向上へ」に基づいた、ベトナムに「国際水準の大学を創設するプロジェクト」について、報告された。

基本的に支援するのは、大学院創設（理工系、医学・医療・看護、経済・経営、農水、法律・日本文化系）となり、同大学院卒業後は日本へ留学できる人材、ベトナムと日本で活躍できる人材、日本の技術を活かしベトナムの発展へ寄与できる人材の育成を目指すとしている。その支援について、民間団体の中からのみでなく医学会からもイニシアチブをとるべく、今後はサマースクール等を企画し、講師を派遣する等要請のあった際は当会からも協力することを提案され、国際交流には積極的に貢献する当学会の方針により、今後要請のあった際は同支援へ協力していくことが了承された。

8. 第 56 回大会（2013 年度）について

木山博資大会長より、先の報告事項にて第 56 回大会については全部報告されたため、特に審議事項無しとした。

9. 第 57 回大会（2014 年度）について

塩坂貞夫大会長より、第 57 回大会について、2014 年度日本生物学的精神医学会の大会を主催される西川徹先生から当会と合同もしくは連携して奈良にて開催したい旨の申し入れがあった旨報告され、審議の結果、大会を日本生物学的精神医学会と一緒に開催することが承認された。

また、開催の形式を合同とするかまたは連携とするかについては、塩坂貞夫大会長へ一任される旨も、併せて承認された。

10. 第 58 回大会（2015 年度）について

白尾智明大会長より、日程及び場所について以下の提案がなされ、審議の結果、承認された。

〈第 58 回（2015 年度）大会開催〉

会 期：2015 年 9 月 11 日（金）～13 日（日）

場 所：大宮ソニックシティ

財団法人 埼玉県産業文化センター

〒330-8669 埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-7-5

ソニックシティビル 5F

Tel No. 048-647-4111

また、大会開催形式については、上記第9項目同様に単独・合同・連携いずれも大会長である白尾智明大会長へ一任される旨、併せて承認された。

11. 第59回大会（2016年度）について

和田圭司大会長より、第59回となる2016年度の大会が、3年ごとの神経科学学会及び日本神経回路学会との合同大会となるかは未定である旨報告された。

今後、本年6月開催のNeuro2013大会時に理事長同士で話し合い、その内容を次の理事会で報告することが了承された。

12. 各種委員会整理について

井上和秀理事長より、2013年度新執行部において、学会がより良くなるよう現在の各種委員会を見直し、整理・統合等工夫することを提案され、その旨了承された。

13. 電子書籍サービスについて

仲嶋一範出版・広報担当理事より、機関誌「神経化学」製作・出版会社である（株）杏林舎が紹介された。

引き続き、（株）杏林舎より、電子書籍サービスについてプレゼンテーションが行われた。

（株）杏林舎より、機関誌を製作・出版する間は、印刷物とは別形態となる電子書籍を無料で利用できる旨提案され、審議の結果、導入することが承認された。

14. その他

◆米田幸雄理事より、2013年度APSNスクールが、6月24日よりシンガポールにて1週間開催される旨告知があり、理事会出席者より若手もしくは学生の参加者をエンカレッジすることが提案され、その旨了承された。

◆遠山正彌理事より、子どもの発達科学研究所等に属する非会員である新人研究者や心理士等が、科学的な解析の仕方を学ぶために、日本神経化学学会大会へ参加する機会となるテーマ等を今後の大会で企画することを提案され、その旨了承された。

以上を以て、予定した全ての議事を終了し、本年度第1回理事会を閉じた。

合同
年会

第36回 日本生物学的精神医学会 第57回 日本神経化学学会大会

大会テーマ:精神疾患解明に向けた新たな融合戦略

会 期 2014年9月29日(月)~10月1日(水)

大会長 第36回 日本生物学的精神医学会 **西川 徹** 東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科 精神行動医学分野 教授
第57回 日本神経化学学会大会 **塩坂 貞夫** 奈良先端科学技術大学院大学
バイオサイエンス研究科 教授

会 場 奈良県文化会館 〒630-8213 奈良市登大路町6-2
奈良県新公会堂 〒630-8212 奈良市春日野町101

大会事務局/
奈良先端科学技術大学院大学 神経機能科学研究室内
〒630-0192 奈良県生駒市高山町8916-5
Tel:0743-72-5413 Fax:0743-72-5419
E-mail: jointconference-staff@bs.naist.jp
運営事務局/
株式会社日本旅行 西日本MICE営業部
〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル5階
Tel:06-6342-0212 Fax:06-6342-0214
E-mail: jsbp_jsn2014@nta.co.jp

第11回世界生物学的精神医学会国際会議 (WFSBP2013KYOTO Congress)

会 期 : 2013年6月23日(日) - 27日(木)

場 所 : 国立京都国際会館

主 催 : 世界生物学的精神医学会 (WFSBP)・日本生物学的精神医学会 (JSBP)
日本学術会議

○ Neuro2013 (第36回日本神経科学大会、第56回日本神経化学学会大会、第23回日本神経回路学会大会合同大会) との連携開催

2013年6月20日 - 27日 国立京都国際会館							
20日(木)	21日(金)	22日(土)	23日(日)	24日(月)	25日(火)	26日(水)	27日(木)
Neuro 2013 (6月20日 - 6月23日) 第36回日本神経科学大会 第56回日本神経化学学会大会 第23回日本神経回路学会大会 合同大会				WFSBP 2013 KYOTO (6月23日 - 6月27日) 第11回世界生物学的精神医学会国際会議 第35回日本生物学的精神医学会			

○ 6月23日には Neuro2013 との共催プログラムを開催

[主 催] Neuro2013 と日本生物学的精神医学会との共催

[参加資格] Neuro2013 または WFSBP2013 の参加登録者であること

※教育コースへの受講受付は当日のみといたします。事前受講申し込みの必要はございません。

■教育コース

[コースタイトル] 臨床医のための最新脳科学教育コース

Neuro2013、日本生物学的精神医学会、WFSBP との共催で、主に臨床医を対象とした最新脳科学についての教育コースを日本語で行うことになりました。神経生物学の基礎と疾患や治療法といった臨床との橋渡しの一助となるよう、また「分かりやすさ」に主眼をおいたコースを目的とします。Neuro2013 の会期最終日、WFSBP2013 (第11回世界生物学的精神医学会国際会議) の初日にあたる、2013年6月23日(日)に国立京都国際会館で行います。

[日 時] 2013年6月23日(日) 9時 - 14時

[場 所] Annex Hall 2

[定 員] 400名程度

[講義の形式] 日本語

[座 長] 細谷 俊彦 (理化学研究所脳科学総合研究センター)

尾崎 紀夫 (名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野)

[講 師] 発生・再生神経科学

岡野 栄之 (慶應義塾大学医学部生理学教室)

分子細胞神経生理学

岡部 繁男 (東京大学大学院医学系研究科神経細胞生物学分野)

システム神経科学

池谷 裕二 (東京大学大学院薬学系研究科薬品作用学教室)

計算論的神経科学 (BMI を含む) 川人 光男 (ATR 脳情報通信総合研究所)

■ Joint Symposium

[Theme 1] **Molecular Neurobiology of Schizophrenia (tentative)**

[Chairs] Kozo Kaibuchi, Japan

John H. Krystal, USA

[Speakers] Kozo Kaibuchi, Japan

Hiroyuki Nawa, Japan

John Krystal, USA

Ridha Joober, Canada

Daniel Javitt, USA



[Theme 2] Neurocircuit for physiological and pathophysiological brain (tentative)

[Chairs] Kenji Doya, Japan
Robert McCarley, USA

[Speakers] Satoshi Kida, Japan
Kenji Doya, Japan
Robert McCarley, USA
Andreas Meyer-Lindenberg, Germany

[日時] 2013年6月23日(日) [Theme 1] 9時-11時 / [Theme 2] 12時30分-14時30分

[場所] Annex Hall 1

[講義の形式] 英語

[問い合わせ先] WFSBP2013 LOC 運営事務局
〒541-0047 大阪市中央区淡路町 3-6-13 株式会社コングレ内
Tel: 06-6229-2555 / Fax: 06-6229-2556 / E-mail: wfsbp2013@congre.co.jp

○日本精神神経学会の専門医の単位について

第11回世界生物学的精神医学会国際会議にご参加いただきますと、日本精神神経学会専門医制度の40単位を取得することができます。

また、本国際会議（第35回日本生物学的精神医学会）の参加者は、日本老年精神医学会の専門医制度の4単位を取得することができます。単位更新の年まで参加登録証を大切に保管ください。

○学生会員への参加料補助制度

NEURO2013に参加し、かつ、WFSBP2013にアブストラクトを提出した日本生物学的精神医学会の学生会員には、WFSBP2013の参加費が補助されます。該当者にはWFSBP2013のEarly Bird参加費（170 EUR）相当額が支給されますので、奮ってお申込下さい。なお、本学会では、新入会員の初年度の年会費が無料となる制度があります。

手続につきましては、日本生物学的精神医学会 jsbp@asas.or.jp へお問い合わせください。

○最新学術プログラム

Scientific Programmeが決まりました。下記のURLより詳細をご確認ください。

<http://www.wfsbp-congress.org/scientific-programme/preliminary-scientific-programme-schedule.html>

○演題申込

アブストラクトの受付は終了いたしました。多数のご応募ありがとうございました。

○登録

参加登録はオンラインで受け付けております。

www.wfsbp-congress.org

Registration and payment received	Late registration by 7 June 2013	On-site registration after 7 June 2013
WFSBP Members	630 Euro	730 Euro
WFSBP Non-Members	730 Euro	830 Euro
Members of the JSBP	590 Euro	690 Euro
Trainees	390 Euro	490 Euro
Participants from Low-Income Countries	390 Euro	490 Euro
Registration fee Japanese Students	230 Euro	290 Euro
Accompanying Persons	100 Euro	100 Euro
Delegates Neuro2013	584 Euro	664 Euro

【助成・褒章案内】

国際学術集会開催助成のご案内

物理学、化学、生物学、医学、地学、天文学などの基礎科学研究者のために

- 募集内容：(1) 基礎科学の適切なテーマについて国際的視野で最高レベルの研究の現状を総括する国際学術集会
(2) 基礎科学研究者の世代間の対話によって、若い世代の研究の発展の基礎を構築する国際学術集会
(3) 基礎科学の異分野間の交流を図り、cross disciplinary な討論を通じて新しい発展を模索する国際学術集会

応募資格：日本の研究機関に所属する研究者であること（身分、経験、年齢等は問わない）

助成金額：総額 700 万円以内

応募方法：財団ホームページにて「公募要領」をご覧の上、ご応募下さい。

募集期間：2013 年 4 月 1 日～2014 年 2 月 28 日（必着）

開催時期：2016 年開催予定の国際学術集会

選考結果：2014 年 8 月初旬頃に WEB サイトにて発表

応募書類送付先・問合せ先：〒544-8666 大阪市生野区巽西 1-8-1

公益財団法人 山田科学振興財団 事務局

TEL：06-6758-3745/FAX：06-6758-4811

E-MAIL：office@yamadazaidan.jp

URL：http://www.yamadazaidan.jp/jigyo/bosyu_kokusai.html

財団法人 井上科学振興財団

井上リサーチアワード 第 6 回（2014 年度）募集要項

趣 旨：自然科学の基礎的研究で優れた業績を挙げ、さらに開拓的発展を目指す若手研究者の独創性と自立を支援することを目的とし、これまでの成果を踏まえ、単独または共同研究者の協力を得て行う、将来性豊かな研究計画を対象とします。

助成対象：自然科学の全分野

応募資格：次のすべての事項に該当すること。

- (1) 自然科学の基礎的研究で博士の学位を取得した研究者で、博士の学位取得後 9 年未満（2014 年 3 月 31 日現在）であること。すなわち、2005 年 4 月 1 日以降に博士の学位を取得した研究者であること。ただし、出産又は子の養育のために、やむを得ず研究活動を中断した場合には、その中断期間は学位取得後の年限には含めないものとします。
- (2) 国公私立大学並びに大学共同利用機関に所属する研究者または所属予定の研究であること。

助成金額と期間：助成金の額は一人当たり 500 万円とし、期間は 2 年とします。なお助成金の使途は、本研究推進に直接寄与する経費（共同研究員を雇用するための経費を含む）に限り、間接経費等機関の共通経費には使用できません。

採択予定数：4 名以内。うち、1 名以上を女性研究者とする。

応募方法：公募（自薦）とする。ただし、所属長の承諾を得て応募すること。

提出書類：所定の申請書と承諾書（井上科学振興財団 HP <http://www.inoue-zaidan.or.jp/> からダウンロードできます。）に必要事項を記載し、各 1 部を井上科学振興財団あてに提出して下さい。また、申請書は E-mail（inoue-fs@inoue-zaidan.or.jp）でもお送り下さい。

提出書類の返却は致しません。

応募締切：2013 年 7 月 31 日（水）※井上科学振興財団必着

選考結果：井上科学振興財団の選考委員会において選考し、理事会において決定します。

結果は、2013 年 12 月中旬に応募者に通知します。

アワード贈呈式：2014 年 2 月に東京で開催の予定

応募書類提出先・問合せ先：財団法人井上科学振興財団

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町 15-15 南平台今井ビル 601

電話：03-3477-2738

FAX：03-3477-2747

E-mail：inoue-fs@inoue-zaidan.or.jp

財団法人 井上科学振興財団 第 30 回（2013 年度）井上学術賞受賞候補者推薦要項

候補者の対象：自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた研究者。

但し、年齢が 2013 年 9 月 20 日現在で 50 歳未満の研究者に限る。

学術賞：【本賞】賞状及び金メダル 【副賞】200 万円

授賞件数は 5 件以内とする。

（注）受賞者は、原則として 1 件につき 1 人とする。特に複数であることを必要とするときは、それらの研究者の寄与が同等であることを示すこと。

但し、この場合においても 1 件として取り扱う。

推薦件数：各推薦学会からは 2 件以内、各推薦者からは 1 件とする。

提出書類：所定の推薦書用紙（井上科学振興財団 HP <http://www.inoue-zaidan.or.jp/> からダウンロード可能）に必要事項を記載し、井上科学振興財団宛てに提出すること。

なお、書類の返却はしない。

日本神経化学会の推薦をご希望の方は、当会研究助成金等候補者選考委員会宛てにご送付下さい。同委員会で選考の上、推薦候補者を決定致します。

応募締切：2013 年 9 月 20 日（金）井上科学振興財団必着

日本神経化学会の推薦をご希望の方は 2013 年 8 月 30 日（金）必着。

選考：井上科学振興財団選考委員会において選考し、同財団理事会において決定する。

選考の結果は、2013 年 12 月中旬に推薦者に通知される。

学術賞の贈呈：2014 年 2 月 4 日（火）午後 4 時から 東京で開催の予定。

推薦書提出先及び連絡先：公益財団法人 井上科学振興財団

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町 15-15 南平台今井ビル 601

電話：03-3477-2738

FAX：03-3477-2747

E-mail：inoue-fs@inoue-zaidan.or.jp

財団法人 井上科学振興財団

第30回（2013年度）井上研究奨励賞受賞候補者推薦要項

推薦の対象：2010年4月1日～2013年3月31日（2010年度～2012年度）の過去3年間に、理学・工学・医学・薬学・農学等の自然科学の基礎的研究において、新しい領域を開拓する可能性のある優れた博士論文を提出し、博士の学位を取得した研究者で、2013年9月20日現在の年齢が35歳未満の者。ただし医学、歯学、または獣医学の学位取得者については37歳未満の者。

研究奨励賞：【本賞】 賞状及び銅メダル 【副賞】 50万円

授賞予定件数は40件。

推薦者：原則として、博士論文の作成を指導した研究者とする。

提出手続：(1) 推薦書（博士論文指導者）は、所定の推薦書用紙に必要事項を記入し、候補者が博士の学位を取得した大学の学長に提出願います。

(2) (1)により推薦書の提出を受けた学長は、井上科学振興財団から学長にあてた推薦依頼文書に示された推薦件数枠の範囲内で推薦書を取りまとめの上、学長名の文書を添えて、所定の提出書類とともに井上科学振興財団へ一括して提出願います。

提出書類：(1) 推薦書 本文…1部

※4ページ。所定の様式による。用紙は、井上科学振興財団 HP よりダウンロードできます。

(2) 同上 写し…2部

(3) 博士論文の概要…2部

※形式自由。A4版で1～2ページ。冒頭に、論文題目と大学・研究科・氏名を記入して下さい。

※上記「(1) 推薦書」(4ページ)とは別です。ご注意ください。

(4) 博士論文…2部

※写しでも可

なお、提出書類の返却はいたしません。

締切期日：2013年9月20日（金）※井上科学振興財団必着

選考：井上科学振興財団の選考委員会において選考し、理事会において決定します。

選考の結果は、2013年12月中旬に推薦大学の学長に通知します。

研究奨励賞の贈呈：2014年2月4日（火）午後4時から 東京で開催の予定

推薦書提出先及び連絡先：財団法人井上科学振興財団

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町15-15 南平台今井ビル601

電話：03-3477-2738

FAX：03-3477-2747

E-mail：inoue-fs@inoue-zaidan.or.jp

2014年～2015年開催 藤原セミナー 募集要項

趣旨：藤原科学財団は、科学技術の振興に寄与することを目的として、2014年～2015年の間「藤原セミナー」の開催を希望する研究者から、下記募集要項に基づいて申請を受け付けます。申請された案件について選考を行い、採択されたものに対してセミナー開催に必要な経費を援助いた

します。

藤原セミナーの選考委員は次の通りです。

山崎敏光（委員長）、末松安晴、岩村 秀、関谷剛男、廣川信隆（敬称略、順不同）

又、必要に応じて専門委員を委嘱することがあります。

記

対象分野：自然科学の全分野

応募資格：わが国の大学等学術研究機関に所属する常勤の研究者

開催件数：2 件以内

開催費用援助額：1 件につき 12,000 千円 以内（総額 24,000 千円 以内）

セミナーの要件：(1) セミナーは、国際的にも学問的水準の高いものとし、そのテーマはなるべく基礎的なもので、関連分野を含めた発展に寄与するものであること。但し二国間会議、定期的に行われる国際会議、およびその準備会議、サテライト会議は対象としない。
(2) 参加者は、50～100 人程度とし、外国人研究者が参加者の 5 分の 1 程度含まれること。なお、国内外の優れた研究実績を有する若い専門研究者の参加を奨励する。
(3) セミナー開催対象期間は、2014 年 1 月 1 日～2015 年 12 月 31 日
(4) セミナーの開催地は、日本国内であること。
(5) セミナー開催日数は、2～4 日以内とする。
(6) 参加者が、セミナー開催期間中、起居を共にすることを原則とし、計画された講演・討論のほか、個人的な討論など自由な雰囲気学問的交流と人間的接触を深め、永続する協力の基盤を作るようなものであること。

申請受付期間：2013 年（平成 25 年）4 月 1 日（月）～同年 7 月 31 日（水）（必着）

当財団が支給する経費：セミナー開催に直接必要な経費として当財団が認めたもので、その費目は次のとおりとする。

(1) 準備費

準備費は、セミナー開催の準備のために必要な国内外旅費、印刷製本費、通信運搬費、会議費、賃金、消耗品費、雑役務費等とする。

(2) 海外参加者旅費

海外からの参加者旅費は、航空賃、滞在費及び必要な場合は交通費とし、次の基準により援助することができる。

- 1 セミナー参加を特に要請する者については、旅費全額
- 2 その他の参加者のうち必要な者については、旅費の一部

(3) 国内参加者旅費

国内参加者旅費は、交通費（出発地から開催地までの往復鉄道賃等）、日当及び宿泊料とし、次の基準により援助することができる。

- 1 セミナー参加を特に要請する者については、旅費全額
- 2 その他の参加者のうち必要な者については、旅費の一部

(4) セミナー経費

セミナー経費は、セミナー開催期間中に必要な組織責任者等の旅費、印刷製本費、通信運搬費、会議費、レセプション経費、賃金、消耗品費、雑役務費等とする。

申請の方法：セミナー開催希望者は、「藤原セミナー開催申請書」（1 通）を、所属組織長を経由して当財団に提出すること。尚、著名な参加予定者については、セミナーのテーマに関する主要論文（5 名以内 1 人につき 1 篇、コピーで可）を添付のこと。

選考及び通知：当財団の藤原セミナー委員会（前記の選考委員で構成）で選考のうえ、その結果を 2013 年（平成 25 年）10 月中旬に申請者ならびに所属組織長に通知する。

開催責任者とその義務：申請が採択された場合は、申請者がセミナー開催責任者となる。セミナー開催責

任者は、セミナーを企画し、運営し、次の事項を処理するとともに当財団との連絡に当たる。

- (1) 実施計画書の提出————(セミナー開催日の2ヶ月前迄)
- (2) 実施報告書及び収支決算報告書の提出————(セミナー終了後3ヶ月以内)
- (3) 準備から終了に至るセミナー開催に関するすべての事項

申請書提出先・連絡先：〒104-0061 東京都中央区銀座 3-7-12

公益財団法人 藤原科学財団 TEL (03) 3561-7736

FAX (03) 3561-7860

藤原科学財団ホームページ <http://www.fujizai.or.jp>

尚ホームページ上にも開催申請書の word ファイルと PDF ファイルが掲載されています。

第 45 回 (2013 年度) 内藤記念海外学者招へい助成金 申請要領

趣 旨：人類の健康の増進に寄与する自然科学の基礎的研究を行う外国の研究者を招へいする際の費用を補助するものである。

- 候補者資格：1) 人類の健康の増進に寄与する自然科学の基礎的研究に独創的・先駆的に取り組み、国際的に高い評価を得ている外国の研究者を招へいする際の当該学術集会(日本国内で開催される定例的な年会や季会)組織委員長(ただし内藤記念科学振興財団の理事・監事・評議員・選考委員は申請できない)
- 2) 同一年度の同一学術集会に招へいする場合の申請は1件とする。
- 3) 招へい時期が下記の期間内であること。

招へい時期	申請区分
2014 年 1 月 1 日～2014 年 6 月 30 日	前期
2014 年 7 月 1 日～2014 年 12 月 31 日	後期

- 4) 内藤記念科学振興財団の選考委員(HP 参照 <http://www.naito-for.jp/>)と同一の教室(講座)に所属する者は申請することができない。

推 薦 者：※内藤記念科学振興財団 HP の Q & A「推薦者の欄」を必ずご覧下さい。

大学関係・・・①大学院：研究科長 ②学部：学部長 ③研究所：研究所長 ④大学病院：医学研究科長

(または医学部長) ①②③以外の大学組織(研究センター、研究施設等)：学長

ただし、同一専攻の研究科(大学院)と学部(大学)の両方からは申請できない。どちらか一方の推薦者とする。

注) センター長、施設長、病院長は推薦者となることができない。

- 1) 大学以外の研究機関：内藤記念科学振興財団の理事会が承認した基礎研究機関の代表責任者
- 2) 内藤記念科学振興財団の理事・監事及び評議員(HP 参照 <http://www.naito-for.jp/>)
- 3) 内藤記念科学振興財団の指定した学会の代表者

推薦件数は1推薦者につき1件(前期・後期 各1件)

申請方法：〈推薦者が上記1) 2) 4) の場合〉申請者⇒大学・研究機関⇒内藤記念科学振興財団

〈推薦者が上記3) の場合〉申請者⇒内藤記念科学振興財団理事・監事・評議員⇒内藤記念科学振興財団

※3) の場合のみ、内藤記念科学振興財団への申請書類の送付は、申請者、推薦者のどちらからでもよい。

内藤記念科学振興財団ホームページの「助成金事業」に記載の手順に従い申請する。
日本神経化学会の推薦をご希望の方は、当会研究助成金等候補者選考委員会宛てにご送付下さい。同委員会では選考の上、推薦候補者を決定致します。

締切日：〈後期〉2013年10月1日（火）

※いずれも内藤記念科学振興財団必着

日本神経化学会の推薦をご希望の方は、〈後期〉2013年9月9日（月）当会必着。

選考方法・採択件数：〈選考方法〉内藤記念科学振興財団選考委員会で審査し、理事会で決定する。

〈採択件数〉前期・後期各10件以内（予算範囲内）

採択の結果は、前期：2013年10月、後期：2014年2月に申請者及び推薦者に通知する。

助成額・送金時期：

エリア	助成額（万円）
中東・アジア	80
米国・カナダ（西海岸除く）、ヨーロッパ、南米	60
米国・カナダ西海岸、オーストラリア、ニュージーランド	50
東南アジア、インド	30
中国、台湾、韓国	20

前期：2013年12月、後期：2014年3月

注意事項：1) 組織委員長及び招へい学者が明記されている書面（当該学術集会の開催趣意書（必須）及びプログラム・サーキュラー等）を、申請書と共に必ず提出する。

2) 来日の中止について：招へい学者が来日中止の場合は助成を辞退していただきますので、内藤記念科学振興財団事務局へ必ず連絡下さい。

報告の義務：1) スポンサーについて：当該学術集会で海外学者による招待講演が行われる場合は、プログラム等に内藤記念科学振興財団（英文：The Naito Foundation）の助成によるものであることを明記する。なお、プログラム等を一部送付する。

2) 学会成果報告書及び使途報告書について：組織委員長は招へい終了1ヶ月以内に所定用紙にて必ず報告する。

◎申請書記載内容に変更が生じた場合は、すみやかに内藤記念科学振興財団事務局にご連絡下さい。

◎申請書等詳細は、内藤記念科学振興財団ホームページ（<http://www.naito-f.or.jp/>）内「助成金事業」に掲載しております。

お問合せ先：公益財団法人 内藤記念科学振興財団

〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目42番6号 NKDビル8階

TEL：03-3813-3861 FAX：03-3811-2917

URL：http://www.naito-f.or.jp

E-mail：joseikin@naito-f.or.jp

第 41 回 (2013 年度)

内藤記念講演助成金 申請要領

趣 旨：国際会議の開催において、自然科学の基礎的研究に関する国内で開催される国際会議の開催に対し、費用を補助するものである。

申請者資格：大学、研究機関に所属する者が主催する自然科学の基礎的研究に関する国内で開催される国際会議（シンポジウム、講演会）の開催責任者。

国際会議とは参加者総数が50名以上で、かつ参加国が日本を含む2カ国以上を占める会議をいう。

なお、下記の申請者は対象外とする。

①国内で開催される学術集会の定例的な年会や季会

②当該年度に既に内藤記念科学振興財団が採択した助成金と同一のシンポジウム・講演会
内藤記念科学振興財団の理事・監事・評議員及び選考委員による申請は原則行わない。ただし、助成金を個人のために使用しないことが明白な場合はこの限りではない。

推 薦 者：1) 内藤記念科学振興財団の理事・監事及び評議員（自薦は対象としない）

2) 内藤記念科学振興財団の指定した学会の代表者（※該当学会には関連書類を送付しています）

推薦件数：内藤記念科学振興財団の理事・監事および評議員の場合1推薦者につき年間2件
内藤記念科学振興財団の指定した学会の代表者の場合1推薦者につき年間1件

申請方法：〈推薦者が上記1）の場合〉 申請者⇒内藤記念科学振興財団理事・監事・評議員⇒内藤記念科学振興財団

※内藤記念科学振興財団への申請書類の送付は、申請者、推薦者のどちらからでもよい。

〈推薦者が上記2）の場合〉 申請者⇒学会事務⇒内藤記念科学振興財団

内藤記念科学振興財団ホームページの「助成金事業」に記載の手順に従い申請する。

日本神経化学会の推薦をご希望の方は、当会研究助成金候補者選考委員会宛て下記日程までにご送付下さい。同委員会では選考の上、推薦候補者を決定致します。

締 切 日：

申請区分	国際会議開催月	申請書受付期間（必着）	採否通知
夏季	7月～9月	4月1日～5月20日	6月中旬
秋季	10月～12月	5月21日～8月20日	9月中旬
冬季	1月～3月	8月21日～11月20日	12月中旬
春季	4月～6月	11月21日～2月20日	3月上旬

日本神経化学会の推薦をご希望の方は、〈秋季〉2013年7月29日（月）当会必着、〈冬季〉2013年10月30日（水）当会必着、〈春季〉2014年1月31日（金）当会必着。

選考方法・採択件数：内藤記念科学振興財団常務理事、選考担当理事、選考委員長全ての承諾により採択する。

採択件数は、予算枠の範囲内。

採否の結果は、上記の時期に申請者および推薦者に通知する。

助成額・送金時期：上限は1件50万円。当該国際会議の開催日を勘案し、送金する。

注意事項：開催趣意書及びプログラム・アブストラクト等会議の概要がわかるものを各1部添付すること。
同一年度の同一学術集会への複数助成はしない。

報告の義務：1) 結果報告及び使途報告書について：助成対象の行事終了後1ヵ月以内に概要を所定用紙にて必ず報告する。

2) 外部発表について：当該学術集会のプログラム等に当財団（英文：The Naito Foundation）

の助成によるものであることを明記する。

◎申請書記載内容に変更が生じた場合は、すみやかに内藤記念科学振興財団事務局にご連絡下さい。

◎申請書等詳細は、内藤記念科学振興財団ホームページ (<http://www.naito-f.or.jp/>) 内「助成金事業」に掲載しております。

お問合せ先：公益財団法人 内藤記念科学振興財団

〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目42番6号 NKDビル8階

TEL：03-3813-3861 FAX：03-3811-2917

URL：http://www.naito-f.or.jp

E-mail：joseikin@naito-f.or.jp

第45回（2013年度）内藤記念科学振興賞候補者推薦要領

趣 旨：人類の健康の増進に寄与する自然科学の基礎的領域において、進歩発展に顕著な功績のあった研究者に対してほう賞を授与するものである。

候補資格：1) 人類の健康の増進に寄与する自然科学の基礎的研究において、独創的テーマに取り組み、進歩発展に顕著な功績を挙げた研究者。

2) 候補者は単独とするが、異なる研究グループによる共同研究の場合には、連名であっても良い。

3) 候補者の再度の推薦は差支えない。

推薦方法：内藤記念科学振興財団ホームページ「助成金事業」に記載の手順に従い推薦する。

日本神経化学会の推薦をご希望の方は、当会研究助成金等候補者選考委員会宛てにご送付下さい。同委員会では選考の上、推薦候補者を決定致します。

締 切 日：2013年10月1日（火）（内藤記念科学振興財団必着）

日本神経化学会の推薦をご希望の方は、2013年9月9日（月）当会必着。

選考方法：内藤記念科学振興財団選考委員会で審査し、理事会で決定する。

採否の結果は、2014年2月に候補者および推薦者に通知する。

授賞式・顕彰：受賞者夫妻は2014年3月20日（木）に行う贈呈式に出席いただきます。受賞者には内藤記念科学振興賞（正賞：金メダル、副賞：1,000万円）を贈呈する。

そ の 他：1) 学会推薦の場合は、学会の公印を捺印する。

2) 内藤記念科学振興財団の理事、監事または評議員推薦の場合は、私印を捺印する。

お問合せ先：公益財団法人 内藤記念科学振興財団

〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目42番6号 NKDビル8階

TEL：03-3813-3861 FAX：03-3811-2917

URL：http://www.naito-f.or.jp

E-mail：joseikin@naito-f.or.jp

【セミナー・講習会】

千里ライフサイエンスセミナー E2

〈エピジェネティクス制御からの生命活動の理解とその展望〉

趣 旨：あらゆる生命現象はゲノム情報に規定されているが、このゲノム情報が適切に取り出され使われることで始めて、生命機能は本来の役割を発揮する。このゲノム情報の活用を司るのが、エピジェネティクス制御系である。エピジェネティクス制御系の理解が進み、それを調節することが可能になれば、これまで理解が困難であった多くの生命現象や疾患も説明できるようになると考えられ、新たな治療法の開発にもつながると期待される。

このシンポジウムでは、エピジェネティクス制御の観点から生命現象を理解するうえで必須なエピゲノム解析技術、エピジェネティクス制御機構の構造学的理解、エピゲノム情報を制御するような創薬への試み、生命現象や疾患はどこまでエピジェネティクス制御の観点から理解できるようになったのか、などに関する最新の話題を提供し、エピジェネティクス制御研究の展望に関して参加者と議論したい。

日 時：平成 25 年 7 月 4 日（木）10：00～17：00

場 所：千里ライフサイエンスセンタービル 5F ライフホール
（地下鉄御堂筋線千里中央駅 北口すぐ）

コーディネーター：理化学研究所 主任研究員 眞貝 洋一

大阪大学大学院生命機能研究科 准教授 木村 宏

プログラム：

「修飾ヒストン抗体を用いたエピゲノム解析の最新技術」

大阪大学大学院生命機能研究科 准教授

木村 宏

「細胞分化における高次クロマチン構造制御機構」

九州大学大学院医学研究院 准教授

大川 恭行

「エピジェネティック制御の構造基盤」

京都大学物質細胞統合システム拠点 特任准教授

有吉真理子

「化学遺伝学によるエピジェネティクス研究」

理化学研究所 主任研究員

吉田 稔

「エピジェネティクス異常、特に DNA メチル化異常と発がん」

東京大学先端科学技術研究センター 特任准教授

金田 篤史

「生殖細胞発生機構の解明とその試験管内再構成」

京都大学大学院医学研究科 教授

斎藤 通紀

定 員：200 名

参 加 費：無料

主 催：公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

申込方法：①氏名、勤務先、所属、役職名、〒、所在地、電話を明記の上、E-mail で下記宛お申し込みください。（FAX での申込也可）

②事務局より「参加証」を送付いたします。

申 込 先：公益財団法人 千里ライフサイエンス振興財団 セミナー E2 事務局

E-mail：dsp@senri-life.or.jp TEL：06-6873-2001 FAX：06-6873-2002

URL：http://www.senri-life.jp

申込締切：定員になり次第締切

第 38 回組織細胞化学講習会のご案内

名 称：第 38 回組織細胞化学講習会

実行委員長：小澤 一史（日本医科大学大学院医学研究科 解剖学・神経生物学分野）

日 程：2013 年 8 月 1 日（木）講習会 1 日目

8 月 2 日（金）講習会 2 日目

8 月 3 日（土）技術講習会（Wet Lab）

会 場：東京大学伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール（講習会）

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

日本医科大学基礎医学大学院棟、医学部教育棟（技術講習会）

〒113-0031 東京都文京区根津 1-25-16（基礎医学大学院棟）、

〒113-0023 東京都文京区向丘 2-20-10（医学部教育棟）

問合せ先：第 38 回組織細胞化学講習会実行委員会事務局

日本医科大学大学院医学研究科（解剖学・神経生物学分野）

TEL：03-3822-2131（内線 5320）

FAX：03-5685-6640

E-mail：info_38kjshc@nacos.com

URL：http://www3.nacos.com/kjshc

日本神経化学会 賛助会員

旭化成ファーマ株式会社

株式会社エイコム

塩野義製薬株式会社

シスメックス株式会社

大正製薬株式会社

武田薬品工業株式会社

田辺三菱製薬株式会社

日本たばこ産業株式会社 医薬総合研究所

Meiji Seika ファルマ株式会社

レノバサイエンス株式会社

(50 音順)

日本神経化学会雑誌「神経化学」投稿規定

1. 日本神経化学会の機関誌として、日本神経化学会及び関連学会の活動に関する記事、神経化学領域の研究紹介等の投稿を受け付けます。学会からの依頼原稿以外については、投稿前に、日本神経化学会事務局または出版・広報委員会の「神経化学」編集委員長にご相談下さい。なお、大会号の掲載記事については、大会プログラム委員会の指示に従って下さい。
2. 投稿原稿の著者は、すべて日本神経化学会の会員である必要があります。非会員による記事については、日本神経化学会の承認が得られた場合にのみ掲載します。
3. 投稿内容は、他誌に掲載されておらず、また投稿中でもないものに限りします。
4. 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）を含む著作権及び出版著作権は、日本神経化学会に帰属します。なお、ここでいう「著作物」とは、紙媒体に限らず電子媒体も含むものとします。ただし、著者自身による使用を拘束するものではありません。
5. 投稿原稿の採否は、通常号については出版・広報委員会が、大会号については大会プログラム委員会が決定します。受理した原稿の体裁は、全体の統一のため出版・広報委員会または大会プログラム委員会において修正することがあります。

6. 執筆要領

（以下は通常号についての要領です。大会号については、大会プログラム委員会の指示に従って下さい。）

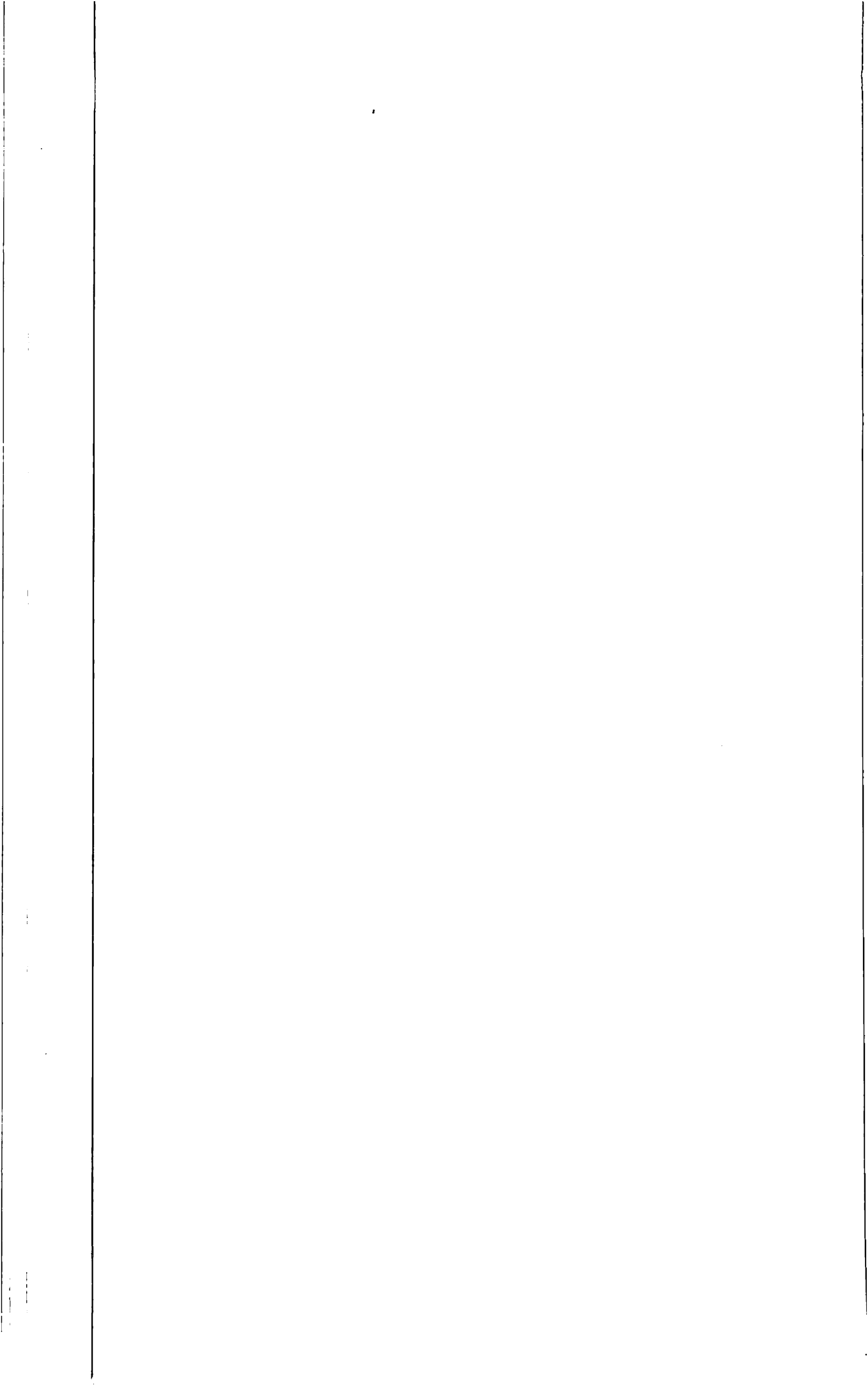
- 1) 原稿は全て電子情報化して下さい。本文は一般的な文書作成ソフト（Microsoft Office Word 等）にて入稿をお願い致します。図表・写真も、jpeg、tiff、Illustrator、PowerPoint、Excel 等、一般的に使われているデータ形式でご用意ください。解像度については、できる限り高い状態のものでお願い致します。電子情報化できない図表・写真に関しましては、制作会社でスキャニング処理を致しますので原稿をお送り下さい（郵送時等に破損する可能性がありますので、極力電子化をお願い致します）。
- 2) 「神経化学」は、電子媒体を含めて日本神経化学会が独自の版権をもつ雑誌ですので、お使いになる図表や写真については他の雑誌との複版にならないようご注意下さい。複版の場合は必要に応じた許諾を事前に必ずとっていただきますようお願い致します。
- 3) 字数制限は設けません。ご参考までに、既刊の「神経化学」をご覧下さい。
- 4) 原稿はプリント出力したもの（図表、写真は、まとめて添付し、本文中に挿入されるべき位置を明示する）と電子媒体（CD ないしは USB メモリー）の両者をお送り下さい。例外として、文章のみの原稿は学会から E-メール添付ファイルとして送付していただく依頼をした場合に限り E-メールに添付してご送付下さい。
- 5) 引用文献は、本文中には文献番号を引用順に括弧に入れて示し、本文の最後の一括して引用順に並べて記載して下さい。詳細は、既刊の「神経化学」をご覧下さい。

例：

- 1) Sekine, K., Honda, T., Kawauchi, T., Kubo, K. and Nakajima, K. The outermost region of the developing cortical plate is crucial for both the switch of the radial migration mode and the Dab1-dependent “inside-out” lamination in the neocortex. *J Neurosci*, 31, 9426-39 (2011).

2) …

- 6) 投稿原稿の著者以外による未発表データ等を “personal communication” や “unpublished data” として記載する場合は、公表に関してご本人の同意があることを証明できる文書を投稿時に必ず添付していただきますようお願い致します。
- 7) 原稿の送付先は、学会から著者の方に直接お知らせします。
- 8) 投稿内容に関連して開示すべき利益相反 (conflict of interest) がある場合には、その内容を記事の末尾等に記載して下さい。利益相反に関する一般的な概念については、“Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals” (http://www.icmje.org/ethical_4conflicts.html) をご参照下さい。



複写をご希望の方へ

日本神経化学会は、本誌掲載著作物の複写に関する権利を一般社団法人学術著作権協会に委託しております。

本誌に掲載された著作物の複写をご希望の方は、(社)学術著作権協会より許諾を受けて下さい。但し、企業等法人による社内利用目的の複写については、当該企業等法人が社団法人日本複写権センター((社)学術著作権協会が社内利用目的の複写に関する権利を再委託している団体)と包括複写許諾契約を締結している場合にあっては、その必要はございません。(社外頒布目的の複写については、許諾が必要です。)

権利委託先：一般社団法人 学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル 3 階

電話：03-3475-5618 FAX：03-3475-5619 E-mail：info@jaacc.jp

複写以外の許諾(著作物の引用、転載、翻訳等)に関しては、(社)学術著作権協会に委託致しておりません。直接日本神経化学会(e-mail：jsn@imic.or.jp FAX：03-5361-7091)へお問合せ下さい。

Reprographic Reproduction outside Japan

Making a copy of this publication

Please obtain permission from the following Reproduction Rights Organizations(RROs) to which the copyright holder has consigned the management of the copyright regarding reprographic reproduction. Obtaining permission to quote, reproduce; translate, etc. Please contact the copyright holder directly.

Users in countries and regions where there is a local PRO under bilateral contract with Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC).

Users in countries and regions of which RROs are listed on the following website are requested to contact the respective RROs directly to obtain permission.

Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC)

Address 9-6-41 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan

Website <http://www.jaacc.jp/>

E-mail info@jaacc.jp

Fax +81-33475-5619

神経化学 52巻 第2号

平成 25 年 6 月 1 日発行

編集兼発行者 日本神経化学会

代 表 者 木山 博資

発 行 者 日本神経化学会

〒160-0016 東京都新宿区信濃町35 信濃町煉瓦館

一般財団法人 国際医学情報センター内

印 刷 所 株式会社 杏林舎